

(様式第 10)

昭大病発第 17 号
令和 3 年 10 月 19 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 昭和大学
理事長 小口勝司

昭和大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8
氏 名	学校法人 昭和大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

昭和大学病院

3 所在の場所

〒142-8666 東京都品川区旗の台1-5-8 電話（03）3784-8000

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☒ 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 腎臓内科 5 神経内科 6 血液内科 7 内分泌内科 8 代謝内科 9 感染症内科 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11 リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☐ 有	☐ 無
外科と組み合わせた診療科名		
☐ 1呼吸器外科	☐ 2消化器外科	☐ 3乳腺外科
☐ 5血管外科	☐ 6心臓血管外科	☐ 7内分泌外科
☐ 4心臓外科		
☐ 8小児外科		
診療実績		

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

☐ 1精神科	☐ 2小児科	☐ 3整形外科	☐ 4脳神経外科	☐ 5皮膚科	☐ 6泌尿器科	7産婦人科
☐ 8産科	☐ 9婦人科	☐ 10眼科	☐ 11耳鼻咽喉科	12放射線科	☐ 13放射線診断科	
☐ 14放射線治療科	☐ 15麻酔科	☐ 16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☐ 有	☐ 無
歯科と組み合わせた診療科名		
1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

☐ 1リハビリテーション科	☐ 2性病科	☐ 3臨床検査科	☐ 4病理診断科	☐ 5歯科口腔外科
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21				

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
0床	0床	0床	0床	815床	815床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	690人	115.8人	805.8人	看 護 補 助 者	8人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	8人	0人	8人	理 学 療 法 士	16人	臨床検査技師	8人
薬 剤 師	76人	1.8人	77.8人	作 業 療 法 士	9人	衛生検査技師	76人
保 健 師	人	人	人	視 能 訓 練 士	人	検 査 そ の 他	人
助 産 師	62人	0.6人	62.6人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看 護 師	933人	3人	936人	臨 床 工 学 士	23人	医療社会事業従事者	6人
准 看 護 師	人	人	人	栄 養 士	人	その他の技術員	13人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	人	事 務 職 員	107人
管 理 栄 養 士	7人	0人	7人	診療放射線技師	57人	そ の 他 の 職 員	17人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	41人	眼 科 専 門 医	1人
外 科 専 門 医	48人	耳鼻咽喉科専門医	10人
精 神 科 専 門 医	1人	放 射 線 科 専 門 医	12人
小 児 科 専 門 医	19人	脳神経外科専門医	14人
皮 膚 科 専 門 医	4人	整 形 外 科 専 門 医	7人
泌尿器科専門医	14人	麻 酔 科 専 門 医	23人
産婦人科専門医	30人	救 急 科 専 門 医	6人
		合 計	230人

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名（病院長 相良 博典） 任命年月日 令和2年4月1日

平成27年4月1日～現在 医療安全管理対策委員会 委員（現在は委員長）

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	571人	0人	571人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	1297人	44人	1341人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数	6419.7剤		
必要医師数	135.8人		
必要歯科医師数	2.2人		
必要薬剤師数	74.76人		
必要（准）看護師数	321.5人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、

「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	664.2m ²	鉄筋コンクリート	病 床 数	ICU 16床 CCU 5床 救急ICU15床 救急CCU5床 心 電 計 ☐ ・無
			人工呼吸装置	☐ ・無 心細動除去装置 ☐ ・無
			その他の救急蘇生装置	☐ ・無 ペースメーカー ☐ ・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 71.89m ² [移動式の場合] 台 数 4台(テント)		病床数	6床
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床 積 22.7m ² [共用室の場合] 共用する室名			
化学検査室	51.8m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動生化学検査装置(BM6010)	
細菌検査室	14.8m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動細菌検査装置(BACTEC-FX)	
病理検査室	91.4m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 凍結ミクロトーム装置(ライカCM1950)	
病理解剖室	97.8 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台・冷蔵庫・光触媒環境浄化装置(SSC-75hi-Y)	
研 究 室	20243.31m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	
講 義 室	5339.77m ²	鉄筋コンクリート	室数16室	収容定員2,593人
図 書 室	1525m ²	鉄筋コンクリート	室数1室	蔵 書 数350,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		83. 1%	逆紹介率	72. 6%
算出根拠	A：紹介患者の数		17,160人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,123人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		4,728人	
	D：初診の患者の数		26,342人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
貝阿彌 誠	弁護士	○	医療に係る安全管理または法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	有・無	1
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院 病院長		医療に関する学識経験者	有・無	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	有・無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無		有・無
委員の選定理由の公表の有無		有・無
公表の方法 病院ホームページに掲載		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がIB期以上及びIIB期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がIA2期以上及びIIB期以下の腺がんであって、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。)	0人
水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

[illegible]

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

難病の患者に対する医療等に関する法律第5条第1項に規定する指定難病

番号	病名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1
2	筋萎縮性側索硬化症	6
3	脊髄性筋萎縮症	3
4	進行性核上性麻痺	3
5	パーキンソン病	53
6	大脳皮質基底核変性症	1
7	重症筋無力症	16
8	多発性硬化症／視神経脊髄炎	18
9	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動	8
10	クロー・深瀬症候群	1
11	多系統萎縮症	3
12	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	4
13	もやもや病	16
14	全身性アミロイドーシス	3
15	神経線維腫症	4
16	天疱瘡	36
17	表皮水疱症	1
18	膿疱性乾癬(汎発型)	6
19	ステイーヴンス・ジョンソン症候群	1
20	中毒性表皮壊死症	1
21	高安動脈炎	15
22	巨細胞性動脈炎	18
23	結節性多発動脈炎	24
24	顕微鏡的多発血管炎	55
25	多発血管炎性肉芽腫症	56
26	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	25
27	悪性関節リウマチ	13
28	パージャー病	1
29	原発性抗リン脂質抗体症候群	2
30	全身性エリテマトーデス	289
31	皮膚筋炎／多発性筋炎	102
32	全身性強皮症	38
33	混合性結合組織病	31
34	シェーグレン症候群	103
35	成人スチル病	25
36	再発性多発軟骨炎	2
37	ベーチェット病	38
38	特発性拡張型心筋症	14
39	肥大型心筋症	13
40	再生不良性貧血	22
41	自己免疫性溶血性貧血	9
42	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
43	特発性血小板減少性紫斑病	65
44	血栓性血小板減少性紫斑病	7
45	原発性免疫不全症候群	9
46	IgA 腎症	20
47	多発性嚢胞腎	14
48	黄色靱帯骨化症	4
49	後縦靱帯骨化症	16
50	広範脊柱管狭窄症	1
51	特発性大腿骨頭壊死症	18
52	下垂体性ADH分泌異常症	4
53	クッシング病	2
54	下垂体前葉機能低下症	15
55	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
56	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
57	アジソン病	3
58	サルコイドーシス	26
59	特発性間質性肺炎	6
60	肺動脈性肺高血圧症	12
61	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
62	リンパ管筋腫症	1
63	網膜色素変性症	1
64	原発性胆汁性胆管炎	26
65	原発性硬化性胆管炎	2
66	自己免疫性肝炎	35
67	クローン病	40
68	潰瘍性大腸炎	125
69	好酸球性消化管疾患	1
70	チャージ症候群	2

番号	病名	患者数
71	筋ジストロフィー	2
72	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	1
73	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1
74	神経細胞移動異常症	2
75	ウェスト症候群	2
76	スタージ・ウェーバー症候群	1
77	結節性硬化症	1
78	家族性良性慢性天疱瘡	1
79	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	23
80	歌舞伎症候群	2
81	多脾症候群	1
82	22q11.2欠失症候群	2
83	修正大血管転位症	4
84	完全大血管転位症	4
85	単心室症	8
86	左心低形成症候群	8
87	三尖弁閉鎖症	3
88	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	4
89	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	12
90	ファロー四徴症	20
91	両大血管右室起始症	12
92	エプスタイン病	2
93	アルポート症候群	1
94	急速進行性糸球体腎炎	17
95	一次性ネフローゼ症候群	69
96	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
97	紫斑病性腎炎	2
98	間質性膀胱炎(ハンナ型)	3
99	オスラー病	1
100	閉塞性細気管支炎	1
101	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1
102	グルコーストランスポーター1欠損症	1
103	尿素サイクル異常症	1
104	家族性地中海熱	1
105	強直性脊椎炎	8
106	骨形成不全症	1
107	軟骨無形成症	2
108	リンパ管腫症/ゴーハム病	2
109	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	2
110	総排泄腔遺残	1
111	胆道閉鎖症	1
112	嚢胞性線維症	2
113	IgG4関連疾患	26
114	好酸球性副鼻腔炎	46
115	左肺動脈右肺動脈起始症	1
116	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	1
117		
118		
119		
120		
121		
122		
123		
124		
125		
126		
127		
128		
129		
130		
131		
132		
133		
134		
135		
136		
137		
138		
139		
140		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・ハイリスク分娩管理加算
・救急医療管理加算	・呼吸ケアチーム加算
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算1
・診療録管理体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・医師事務作業補助体制加算1(25対1)	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算(25対1)(補助者5割以上)	・データ提出加算2 イ
・夜間急性期看護補助体制加算(100対1)	・入退院支援加算1
・夜間看護体制加算	・入院時支援加算
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・療養環境加算	・精神疾患診療体制加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料1(小児加算)
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料1(小児加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・緩和ケア診療加算	・特定集中治療室管理料3(小児加算)(早期離床・リハビリテーション加算)
・栄養サポートチーム加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・医療安全対策加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料1
・感染防止対策加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料2
・感染防止対策地域連携加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・抗菌薬適正使用支援加算	・小児入院医療管理料1(プレイルーム加算)
・患者サポート体制充実加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウィルス疾患指導料 注2に規定する施設基準	・椎間板内酵素注入療法
・外来栄養食事指導料(注2外来化学療法実施患者の栄養食事指導を行う場合)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・心臓ペースメーカー指導管理料(遠隔モニタリング加算)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術
・糖尿病合併症管理料	・人工中耳植込術、人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・がん性疼痛緩和指導管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・がん患者指導管理料イ	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・がん患者指導管理料ロ	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・がん患者指導管理料ハ	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(MRIによるもの)
・がん患者指導管理料ニ	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・外来緩和ケア管理料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・ゲル充填人工乳房を用いた再建手術(乳房切除後)
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・糖尿病透析予防指導管理料	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膣腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・婦人科特定疾患治療管理料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・腎代替療法指導管理料	・経カテーテル大動脈弁置換術
・地域連携小児夜間・休日診療料2	・不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの))

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

・地域連携夜間・休日診療料	・磁気ナビゲーション加算
・院内トリアージ実施料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・外来放射線照射診療料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・ニコチン依存症管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・療養・就労両立支援指導料(注3に掲げる相談支援加算)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・がん治療連携計画策定料	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極拔去術
・薬剤管理指導料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・医療機器安全管理料1	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・医療機器安全管理料2	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)及び歯科治療時医療管理料	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算	・経皮的下肢動脈形成術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術
・遺伝学的検査	・腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

・骨髓微小残存病変量測定	・腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術
・BRCA1/2遺伝子検査	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・がんゲノムプロファイリング検査	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・先天性代謝異常症検査	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・体外衝撃波胆石破碎術
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・腹腔鏡下肝切除術
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・生体部分肝移植術
・検体検査管理加算(Ⅱ)	・体外衝撃波膵石破碎術
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・胎児心エコー法	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ヘッドアップティルト試験	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
皮下連続式グルコース測定	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・脳波検査判断料1	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

・神経学的検査	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補聴器適合検査	・同種死体腎移植術
・小児食物アレルギー負荷検査	・生体腎移植術
・内服・点滴誘発試験	・膀胱水圧拡張術
・センチネルリンパ節生検	・腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術
・精密触覚機能検査	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・画像診断管理加算1	・人工尿道括約筋植込・置換術
・画像診断管理加算3	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・遠隔画像診断	・腹腔鏡下仙骨腫固定術
・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いた場合)
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・血流予備量比コンピューター断層撮影	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・外傷全身CT加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・心臓MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳房MRI撮影加算	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・頭部MRI撮影加算	・胎児輸血術
・全身MRI撮影加算	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・外来化学療法加算1	・子宮附属器腫瘍摘出術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行うものに限る。)
・外来化学療法加算(連携充実加算)	・輸血管理料Ⅰ
・無菌製剤処理料	・輸血適正使用加算
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・自己クリオプレシピテート作製法(用手法)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)(初期加算)	・人工肛門・人工膀胱造設術前前処置加算
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)(初期加算)	・レーザー機器加算
・がん患者リハビリテーション料	・麻酔管理料(Ⅰ)
・リンパ浮腫複合的治療料	・麻酔管理料(Ⅱ)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・放射線治療専任加算
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・外来放射線治療加算
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・高エネルギー放射線治療
・人工腎臓(慢性維持透析1)	・1回線量増加加算
・導入期加算2	・強度変調放射線治療(IMRT)
・透析液水質確保加算	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・慢性維持透析濾過加算	・体外照射呼吸性移動対策加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・定位放射線治療
・CAD/CAM冠	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・病理診断管理加算2
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・クラウン・ブリッジ維持管理料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	CPC 19回(2020年度) 症例検討会(医局会) 46回(2020年度)
剖 検 の 状 況	剖検症例数39例 / 剖検率9.9%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証明する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ドナーミルクを安定供給できる母乳バンクを整備するための研究	水野 克己	小児科学	¥6,900,000	補助金	厚生労働省
出生前検査に関する妊産婦等の意識調査や支援体制構築のための研究	白土 なほ子	産婦人科	¥6,370,000	補助金	厚生労働省
日本の集中治療臨床情報を基盤として人工知能を用いた本邦発の重症度予測モデルの開発とパネルデータ活用環境の醸成	大嶽 浩司	麻酔科	¥5,275,000	補助金	厚生労働省
稀少てんかんに関する調査研究	加藤 光広	小児科学	¥1,500,000	補助金	厚生労働省
先天異常症候群のライフステージ全体の自然歴と合併症の把握：Reverse phenotypingを包含したアプローチ	加藤 光広	小児科学	¥1,450,000	補助金	厚生労働省
PRO-CTCAEの日本語版の実臨床および臨床試験における有効性の評価	矢嶋 宣幸	リウマチ・膠原病内科	¥1,315,000	補助金	厚生労働省
重症多形滲出性紅斑に関する調査研究	末木 博彦	皮膚科学	¥1,200,000	補助金	厚生労働省
運動症状を主症状とする小児期発症稀少難治性神経疾患研究	加藤 光広	小児科学	¥1,000,000	委託費	国立精神・神経医療研究センター
無侵襲的胎児RHDジェノタイプング技術を遺伝学的検査として確立するための精度評価	関沢 明彦	産婦人科	¥1,000,000	委託費	国立成育医療研究センター
HTLV-1母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究	関沢 明彦	産婦人科	¥600,000	補助金	厚生労働省
HTLV-1母子感染対策および支援体制の課題の検討と対策に関する研究	宮沢 篤生	小児科学	¥600,000	補助金	厚生労働省
ゲノム情報を活用した遺伝性腫瘍の先制的医療提供体制の整備に関する研究	中村 清吾	乳腺外科	¥500,000	補助金	厚生労働省
成人固形がんに対する標準治療確立のための基盤研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥500,000	委託費	国立がん研究センター
新型コロナウイルス感染症による嗅覚、味覚障害の機序と疫学、予後の解明に資する研究	洲崎 勲夫	耳鼻咽喉科	¥500,000	補助金	厚生労働省
アミロイドーシスに関する調査研究	小野 賢二郎	脳神経内科	¥200,000	補助金	厚生労働省
安全で効果的な質の高い放射線治療の実施体制確立のための基盤研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥150,000	委託費	国立がん研究センター
限局性皮膚異形成II型のてんかん発作に対するシロリムスの有効性と安全性に関する無対照非盲検医師主導治験	加藤 光広	小児科	¥38,805,381	委託費	日本医療研究開発機構
思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究	松本 光司	産婦人科	¥6,550,000	委託費	日本医療研究開発機構
日本人BRCA未発症変異保持者に対する乳癌リスク低減手法の開発研究	中村 清吾	乳腺外科	¥6,506,000	委託費	日本医療研究開発機構
薬剤性間質性肺炎・重症薬疹に関するバイオマーカー候補の適格性確認と規制要件案の作成に関する研究	渡辺 秀晃	皮膚科	¥2,500,000	委託費	日本医療研究開発機構
NGS技術を駆使した遺伝学的解析による家族性乳がんの原因遺伝子同定と標準化医療構築	中村 清吾	乳腺外科	¥2,346,154	委託費	日本医療研究開発機構
細胞性自然免疫応答賦活によるC型肝炎における肝がん予防法の開発 (分担課題名：線型MICA切断酵素の同定と酵素活性阻害薬の開発)	荒井 潤	消化器内科学	¥2,000,000	委託費	日本医療研究開発機構
レヒー小体型認知症(DLB)の病源性蛋白質αシヌクレインの新規診断・治療効果判定法の開発	小野 賢二郎	脳神経内科	¥1,538,462	委託費	日本医療研究開発機構
非HIV免疫再構築症候群の疾患概念確立とバイオマーカーの研究開発	末木 博彦	皮膚科	¥750,000	委託費	日本医療研究開発機構
乳房再建におけるアウトカム指標の確立と科学的根拠に基づいた患者意思決定支援 (分担課題名：アウトカム評価指標(整容性評価)の確立、多施設コホート研究施設代表者)	黒木 知明	形成外科学	¥700,000	委託費	日本医療研究開発機構
GT863のアミロイドβ凝集阻害の分子機構解析	小野 賢二郎	脳神経内科	¥650,000	委託費	日本医療研究開発機構
局所進行食道癌に対する新しい術前治療を確立する研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥500,000	委託費	日本医療研究開発機構
局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌(pT1癌)に対するカペタシン併用放射線療法法の単群検証的試験に関する研究開発(JCOG1612)	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥500,000	委託費	日本医療研究開発機構
乳腺非触知病変摘出のための磁性を用いたピンポイント検出システムの開発・海外展開	中村 清吾	乳腺外科	¥423,077	委託費	日本医療研究開発機構
早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥390,000	委託費	日本医療研究開発機構
超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究	明石 定子	乳腺外科	¥384,616	委託費	日本医療研究開発機構

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証明する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
軽度アルツハイマー型認知症を対象とする八味地黄丸の認知機能に対する有効性と安全性を確認する探索的オープン標準地用対照無作為化割付多施設共同試験	小野 賢二郎	脳神経内科	¥261,710	委託費	日本医療研究開発機構
切除不能局所進行食道癌に対する標準治療確立のための研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥200,000	委託費	日本医療研究開発機構
直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥200,000	委託費	日本医療研究開発機構
診療連携・国際連携をも視野にいた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	本田 浩一	腎臓内科	¥100,000	委託費	日本医療研究開発機構
子宮頸癌根治術後再発高リスク患者に対する強度変調放射線治療(IMRT)を用いた低毒性補助療法の確立に向けての研究	伊藤 芳紀	放射線治療科	¥100,000	委託費	日本医療研究開発機構
乳腺濃度別に乳房検査を選択する新しい乳癌検診のための臨床研究	沢田 晃暢	乳腺外科	¥500,000	補助金	文部科学省
Insight TNBCtypeによるsubtype/分子標的薬治療の確立	増田 紘子	乳腺外科	¥300,000	補助金	文部科学省
慢性閉塞性肺疾患の認知症を予防する非薬物療法の構築	山本 真弓	呼吸器・アレルギー内科	¥900,000	補助金	文部科学省
胸郭周囲径計測器を用いた肺切除後呼吸器合併症軽減の試み	植松 秀護	呼吸器外科	¥600,000	補助金	文部科学省
妊娠高血圧腎症の発症予知方法確立および低用量アスピリン内服による発症予防効果検証	徳中 真由美	産婦人科	¥900,000	補助金	文部科学省
膵臓がんに対する次世代型免疫療法開発にむけた腫瘍細胞に特異的な糖鎖構造の解析	大熊 遼太郎	腫瘍内科	¥1,200,000	補助金	文部科学省
脱抑制によって活性化する興奮性脊髄介在ニューロンネットワークの解明	三上 貴弘	整形外科	¥1,100,000	補助金	文部科学省
新生児ラット脳幹脊髄標本を用いたマルチモーダル鎮痛の神経機構の解明	津澤 佳代	整形外科	¥1,400,000	補助金	文部科学省
動脈硬化症モデル動物への終末糖化産物アブタマーの治療応用	寺崎 道重	糖尿病・代謝・内分泌内科	¥1,300,000	補助金	文部科学省
忘れた時をつなぐ“ことば”の探求	二村 明德	脳神経内科	¥600,000	補助金	文部科学省
メタゲノム解析を用いた口腔内細菌叢と内頸動脈狭窄症との関連性の追求	宮久保 あや子	地域連携歯科	¥1,300,000	補助金	文部科学省
関節リウマチの骨破壊の病態とADAM-17の関連・新規薬剤の開発	古屋 秀和	リウマチ・膠原病内科	¥1,900,000	補助金	文部科学省
非侵襲的冠動脈プラークイメージングによるSLEの急性冠症候群ハイリスク群の同定	細沼 雅弘	リウマチ・膠原病内科	¥800,000	補助金	文部科学省
「主体性」が在宅障害者の生活を改善させる—主体性段階評価と主体性促す対応—	和田 真一	リハビリテーション科	¥300,000	補助金	文部科学省
急性期脳卒中高次脳機能障害に対する音楽リハビリテーションの開発と有効性の検証	笠井 史人	リハビリテーション科	¥200,000	補助金	文部科学省
マウス熱中症モデルにおける凝固線溶異常・血管内皮傷害の検討 敗血症と何が違うのか	宮本 和幸	救急・災害医学	¥900,000	補助金	文部科学省
軽度から中等度熱中症における脳神経機能への影響と予防法の開発	土肥 謙二	救急・災害医学	¥1,900,000	補助金	文部科学省
フレイル合併COPD患者における多職種医療チームによる非薬物的介入の検討	本間 哲也	呼吸器・アレルギー内科	¥600,000	補助金	文部科学省
上皮成長因子受容体ErbB2経路のリガンドを用いたアレルギー性喘息の治療法の開発	井上 英樹	呼吸器・アレルギー内科	¥900,000	補助金	文部科学省
シミュレーションシステムによる反復学修はアナフィラキシーへの対応能力を向上させる	鈴木 慎太郎	呼吸器・アレルギー内科	¥2,200,000	補助金	文部科学省
母体の脂肪組織間葉系幹細胞を用いた胎児治療法の開発:ダウン症モデルマウスへの応用	川嶋 章弘	産婦人科	¥1,400,000	補助金	文部科学省
母体血漿中DNA/RNAを用いた妊娠高血圧症候群の予知法の開発	小出 馨子	産婦人科	¥1,100,000	補助金	文部科学省
常位胎盤早期剥離の発症機序に関する研究:子宮内細菌叢の観点から	関沢 明彦	産婦人科	¥1,100,000	補助金	文部科学省
HPVワクチンの有効性:ブレイクスルー症例の解析	小貫 麻美子	産婦人科	¥1,200,000	補助金	文部科学省
HPV18型のウイルスゲノム解析:臨床応用への検討	廣瀬 佑輔	産婦人科	¥1,500,000	補助金	文部科学省
慢性副鼻腔炎におけるバイオマーカーとしてのペリオスチンの有用性の検討	洲崎 勲夫	耳鼻咽喉科	¥600,000	補助金	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証明する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
抗PD-1抗体薬の受容体結合率と有効性及び副作用との相関性解析	平澤 優弥	腫瘍内科	¥1,500,000	補助金	文部科学省
心臓リハビリテーションによるHDL亜分画の変化及び冠動脈イベント回避への影響	横田 裕哉	循環器内科	¥900,000	補助金	文部科学省
AIブランク診断を用いた高齢者急性冠症候群治療における出血性イベント最少化戦略	新家 俊郎	循環器内科	¥700,000	補助金	文部科学省
鶏卵経口免疫療法におけるビフィズス菌摂取介入効果に関する無作為二重盲検比較試験	今井 孝成	小児科	¥1,100,000	補助金	文部科学省
少量鶏卵経口免疫療法へのビフィズス菌の効果に関する無作為二重盲検化対照比較試験	前田 麻由	小児科	¥600,000	補助金	文部科学省
極低出生体重児の体組成正常化および神経学的予後改善をめざした栄養管理の検討	中野 有也	小児科	¥600,000	補助金	文部科学省
極低出生体重児に対する経母乳ヒトサイトメガロウイルス感染症対策	水野 克己	小児科	¥1,100,000	補助金	文部科学省
人工知能(AD)とRNA-Seqの融合による遺伝性小児神経疾患の新たな病因解明	加藤 光広	小児科	¥1,200,000	補助金	文部科学省
早産児に対する亜鉛早期補充の臨床的検討	宮沢 篤生	小児科	¥900,000	補助金	文部科学省
異なる生活環境における腸内細菌叢の違いに着目したアレルギー疾患発症因子の解明	岡田 祐樹	小児科	¥900,000	補助金	文部科学省
ファロー四徴症術後患者の経皮的肺動脈弁置換術早期導入に向けた適応判定法の構築	藤井 隆成	小児循環器内科	¥600,000	補助金	文部科学省
血液線維素溶解系因子による虚血再灌流障害の制御機構の解明と臨床応用に向けて	田代 良彦	消化器・一般外科	¥600,000	補助金	文部科学省
消化器癌における術中リアルタイムがん診断自動解析システムの新規開発	青木 武士	消化器・一般外科	¥1,200,000	補助金	文部科学省
肝腫瘍に対する肝表層血管構造のAI診断に基づくリアルタイム解析システムの開発	松田 和広	消化器・一般外科	¥800,000	補助金	文部科学省
ADAM9を標的とし、NK細胞傷害活性増強による癌自然免疫療法の開発	荒井 潤	消化器内科	¥1,800,000	補助金	文部科学省
PTPRK遺伝子変異を介した大腸発癌機構の解明	東條 正幸	消化器内科	¥400,000	補助金	文部科学省
腎不全病態下におけるvascular healthとビタミンD	溝渕 正英	腎臓内科	¥1,400,000	補助金	文部科学省
実験的腎障害モデルを用いた腎臓病進展因子の解明～IL-34とその関連因子の役割	和田 幸寛	腎臓内科	¥600,000	補助金	文部科学省
慢性腎臓病の栄養障害・サルコペニアの発症・進展とエビゲノム異常の関係	本田 浩一	腎臓内科	¥1,400,000	補助金	文部科学省
損傷脊髄における移植間葉系骨髄幹細胞のホーミングと運動療法との併用効果の検討	平泉 裕	整形外科	¥900,000	補助金	文部科学省
骨粗鬆症薬の投薬・投薬中断が脊椎固定術に与える影響の包括的検討	石川 紘司	整形外科	¥1,100,000	補助金	文部科学省
髄鞘を標識した遺伝子改変メダカを用いた骨折治癒過程における髄鞘の動態解明	百々 悠介	整形外科	¥500,000	補助金	文部科学省
長期慢性疾患療養者健康支援の為に電子カルテ連携型無負担患者モニターシステムの開発	山越 康弘	整形外科	¥4,000,000	補助金	文部科学省
ガンマ波規則性定量化・動的解析によるてんかん病変部・ネットワーク描出法の開発	佐藤 洋輔	脳神経外科	¥1,400,000	補助金	文部科学省
重症薬疹における薬物とHLA の結合様式の解析および重症薬疹治療薬の開発	渡辺 秀晃	皮膚科	¥1,100,000	補助金	文部科学省
呼吸プロポフォール連続測定の臨床使用のための基盤研究	増井 健一	麻酔科	¥600,000	補助金	文部科学省
妊娠高血圧症候群における脳脊髄液の比重変化と脊髄くも膜下麻酔範囲への影響	細川 幸希	麻酔科	¥100,000	補助金	文部科学省
全身性エリテマトーデス患者の行動変容を促すモバイルヘルスシステム開発と効果検証	矢嶋 宣幸	リウマチ・膠原病内科	¥2,600,000	補助金	文部科学省
生後のIGF-1投与が未熟児網膜症に与える影響の基礎研究	齋藤 雄太	眼科	¥900,000	補助金	文部科学省
事象関連電位と瞳孔径変化から解明する発達障害におけるパニックの神経基盤	戸田 重誠	精神神経科	¥1,000,000	補助金	文部科学省
終末糖化産物阻害アプタマーによる老年病の包括的な制御	山岸 昌一	糖尿病・代謝・内分泌内科	¥1,200,000	補助金	文部科学省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証明する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
終末糖化産物受容体阻害アプタマーによる血管再狭窄に対する新しい治療手段の開発	九島 秀樹	糖尿病・代謝・内分泌内科	¥1,300,000	補助金	文部科学省
膜障害に焦点を当てた高分子Aβオリゴマーの毒性機序に関する検討	小野 賢二郎	脳神経内科	¥1,200,000	補助金	文部科学省
アルツハイマー病における時間認知障害—関係発達論による神経心理学の展開—	杉本 あずさ	脳神経内科	¥400,000	補助金	文部科学省
ビタミンB12のアルツハイマー病の予防・進行抑制機序の解明 基礎から臨床まで	木村 篤史	脳神経内科	¥1,300,000	補助金	文部科学省

計 97 件

(注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究の内、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には主たる研究者の氏名を記入すること。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	別紙参照				Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計172件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Akimoto Kaho, Hirai Kuniaki, Matsunaga Tomohiro et al.	呼吸器・アレルギー内科	The Relationship Between the “Adherence Starts with Knowledge-20” Questionnaire and Clinical Factors in Patients with COPD: A Multi-Center, Cross-Sectional Study	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2020 Dec 4;15:3201-3211. (オンライン)	Original article
2	Ando Koichi, Akimoto Kaho, Sato Hiroki et al.	呼吸器・アレルギー内科	Brigatinib and Alectinib for ALK Rearrangement-Positive Advanced Non-Small Cell Lung Cancer With or Without Central Nervous System Metastasis: A Systematic Review and Network Meta-Analysis	Cancers (Basel). 2020 Apr 10;12(4):942. (オンライン)	Review
3	Ando Koichi, Kishino Yasunari, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Nivolumab plus Ipilimumab versus Existing Immunotherapies in Patients with PD-L1-Positive Advanced Non-Small Cell Lung Cancer: A Systematic Review and Network Meta-Analysis	Cancers (Basel). 2020 Jul 15;12(7):1905. (オンライン)	Review
4	Ando Koichi, Manabe Ryo, Kishino Yasunari et al.	呼吸器・アレルギー内科	Comparative Efficacy and Safety of Anti-PD-1/PD-L1 Immune Checkpoint Inhibitors for Refractory or Relapsed Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer-A Systematic Review and Network Meta-Analysis	Cancers (Basel). 2020 Dec 27;13(1):52. (オンライン)	Review
5	Ando Koichi, Manabe Ryo, Kishino Yasunari et al.	呼吸器・アレルギー内科	Comparative Efficacy and Safety of Immunotherapeutic Regimens with PD-1/PD-L1 Inhibitors for Previously Untreated Extensive-Stage Small Cell Lung Cancer: A Systematic Review and Network Meta-Analysis	Curr Oncol. 2021 Feb 27;28(2):1094-1113.	Review
6	Fukuda Yosuke, Akimoto Kaho, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Virus-Induced Asthma Exacerbations: SIRT1 Targeted Approach	J Clin Med. 2020 Aug 13;9(8):2623. (オンライン)	Review
7	Fukuda Yosuke, Tanaka Akihiko, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Utility of SpO2/FiO2 ratio for acute hypoxemic respiratory failure with bilateral opacities in the ICU	PLoS One. 2021 Jan 25;16(1):e0245927. (オンライン)	Original article
8	Fukuda Yosuke, Sugimoto Hiroshi, Yamada Yoshie et al.	呼吸器・アレルギー内科	Safety and feasibility of lung biopsy in diagnosis of acute respiratory distress syndrome: protocol for a systematic review and meta-analysis	BMJ Open. 2021 Feb 12;11(2):e043600. (オンライン)	Original article
9	Fukuda Yosuke, Homma Tetsuya, Uno Tomoki et al.	呼吸器・アレルギー内科	Fatal rupture of pulmonary artery pseudoaneurysm after thoracic radiation therapy against lung squamous cell carcinoma: A case report and literature review	Clin Case Rep. 2020 Dec 7;9(2):737-741. (オンライン)	Case report
10	Hirai Kuniaki, Homma Tetsuya, Matsunaga Tomohiro et al.	呼吸器・アレルギー内科	Usefulness of Ninjin'yoeito for Chronic Obstructive Pulmonary Disease Patients with Frailty	J Altern Complement Med. 2020 Aug;26(8):750-757.	Original article
11	Hirai Kuniaki, Tanaka Akihiko, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Oral meal intake as a prognostic predictor of community-acquired pneumonia: A retrospective cohort study	J Infect Chemother. 2020 Nov;26(11):1186-1191.	Original article
12	Hirai Kuniaki, Tanaka Akihiko, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Serum creatinine/cystatin C ratio as a surrogate marker for sarcopenia in patients with chronic obstructive pulmonary disease	Clin Nutr. 2021 Mar;40(3):1274-1280.	Original article
13	Hirai Kuniaki, Tanaka Akihiko, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Prevalence and clinical features of asthma-COPD overlap in patients with COPD not using inhaled corticosteroids	Allergol Int. 2021 Jan;70(1):134-135.	Letter
14	Hirai Kuniaki, Tanaka Akihiko, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Investigating Patient and Family Satisfaction with the Respiratory Status in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease	COPD. 2021 Feb;18(1):83-90.	Original article
15	Inoue Hideki, Akimoto Kaho, Homma Tetsuya et al.	呼吸器・アレルギー内科	Airway Epithelial Dysfunction in Asthma: Relevant to Epidermal Growth Factor Receptors and Airway Epithelial Cells	J Clin Med. 2020 Nov 18;9(11):3698. (オンライン)	Review
16	Kawahara Tomoko, Yamaguchi Munehiro, Onitsuka Chisato	呼吸器・アレルギー内科	Utility of Basophil Activation Test in a Case of Daisaikoto- and Yokukansan-induced Lung Injury	Intern Med. 2021 May 15;60(10):1573-1576.	Original article
17	Ohmori Tohru, Yamaoka Toshimitsu, Ando Koichi et al.	呼吸器・アレルギー内科	Molecular and Clinical Features of EGFR-TKI-Associated Lung Injury	Int J Mol Sci. 2021 Jan 14;22(2):792. (オンライン)	Review
18	Ohta Shin, Tanaka Akihiko, Jinno Megumi et al.	呼吸器・アレルギー内科	Exposure to intermittent hypoxia inhibits allergic airway inflammation in a murine model of asthma	Sleep Breath. 2020 Jun;24(2):523-532.	Original article
19	Sagara Hironori, Barbier Nathalie, Ishii Tsuyoshi et al.	呼吸器・アレルギー内科	Efficacy of one time per day, single-inhaler indacaterol/glycopyrronium/mometasone in patients with inadequately controlled asthma: post hoc analysis of IRIDIUM study in Asian population	BMJ Open Respir Res. 2021 Mar;8(1):e000856. (オンライン)	Original article
20	Tanaka Akihiko, Sato Hiroki, Akimoto Kaho et al.	呼吸器・アレルギー内科	Spontaneous sputum discriminates inflammatory phenotypes in patients with asthma	Ann Allergy Asthma Immunol. 2021 Jan;126(1):54-60.e1. (オンライン)	Original article
21	Uchida Yoshitaka, Terada Jiro, Homma Tetsuya	呼吸器・アレルギー内科	Safety and Efficacy of Nontuberculous Mycobacteria Treatment among Elderly Patients	Medicina (Kaunas). 2020 Oct 2;56(10):517. (オンライン)	Original article
22	Uno Tomoki, Homma Tetsuya, Shigemura Masahiko et al.	呼吸器・アレルギー内科	Correlation of Arterial CO(2) and Respiratory Impedance Values among Subjects with COPD	J Clin Med. 2020 Aug 31;9(9):2819. (オンライン)	Original article
23	Hosonuma Masahiro, Sakai Nobuhiro, Furuya Hidekazu et al.	リウマチ・膠原病内科	Inhibition of hepatocyte growth factor/c-Met signalling abrogates joint destruction by suppressing monocyte migration in rheumatoid arthritis	Rheumatology (Oxford). 2021 Jan 5;60(1):408-419.	Original article
24	Ikari Yuzo, Yajima Nobuyuki, Miwa Yusuke et al.	リウマチ・膠原病内科	The association between age and adverse events due to biologic disease-modifying antirheumatic drugs in patients with rheumatoid arthritis: A retrospective cohort study	Medicine (Baltimore). 2020 Dec 24;99(52):e23861. (オンライン)	Original article

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
25	Isosaki Takeo, Homma Tetsuya, Sagara Hironori et al.	リウマチ・膠原病内科	Role of Cytokines in EGPA and the Possibility of Treatment with an Anti-IL-5 Antibody	J Clin Med. 2020 Nov 30;9(12):3890. (オンライン)	Review
26	Miwa Yusuke, Mitamura Yuko	リウマチ・膠原病内科	Effects of biologic drugs on the prognosis of rheumatoid arthritis among patients with poor diabetes control	Eur J Rheumatol. 2020 Apr;7(2):60-63.	Original article
27	Yajima Nobuyuki, Tsujimoto Yasushi, Fukuma Shingo et al.	リウマチ・膠原病内科	The development of quality indicators for systemic lupus erythematosus using electronic health data: A modified RAND appropriateness method	Mod Rheumatol. 2020 May;30(3):525-531.	Original article
28	Fujikawa Tomoki, Ohara Makoto, Kohata Yo et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Glucose Variability is Independently Correlated with Serum Level of Pigment Epithelium-Derived Factor in Type 2 Diabetes	Diabetes Ther. 2021 Mar;12(3):827-842.	Original article
29	Fukase Ayako, Fukui Tomoyasu, Sasamori Hiroto et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Pancreatic fat accumulation evaluated by multidetector computed tomography in patients with type 2 diabetes	J Diabetes Investig. 2020 Sep;11(5):1188-1196.	Original article
30	Mori Yusaku, Hiromura Munenori, Terasaki Michishige et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Very rare case of Graves' disease with resistance to methimazole: a case report and literature review	J Int Med Res. 2021 Mar;49(3):300060521996192. (オンライン)	Review
31	Osaka Naoya, Kushima Hideki, Mori Yusaku et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	Anti-inflammatory and atheroprotective properties of glucagon	Diab Vasc Dis Res. 2020 May-Jun;17(5):1479164120965183. (オンライン)	Original article
32	Terasaki Michishige, Yashima Hironori, Mori Yusaku et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	A Dipeptidyl Peptidase-4 Inhibitor Inhibits Foam Cell Formation of Macrophages in Type 1 Diabetes via Suppression of CD36 and ACAT-1 Expression	Int J Mol Sci. 2020 Jul 7;21(13):4811. (オンライン)	Original article
33	Yashima Hironori, Terasaki Michishige, Sotokawauchi Ami et al.	糖尿病・代謝・内分泌内科	AGE-RAGE Axis Stimulates Oxidized LDL Uptake into Macrophages through Cyclin-Dependent Kinase 5-CD36 Pathway via Oxidative Stress Generation	Int J Mol Sci. 2020 Dec 4;21(23):9263. (オンライン)	Original article
34	Arai Jun, Ito Takayoshi, Shimozuma Yuu et al.	消化器内科	Decreased expression of interferon-stimulated genes in B cells of patients with chronic hepatitis C during interferon-free therapy potentially suggests the eradication of hepatitis C virus in the B cells: A cohort study	Health Sci Rep. 2020 Jul 15;3(3):e176. (オンライン)	Original article
35	Arai Jun, Goto Kaku, Otoyama Yumi et al.	消化器内科	Leukotriene receptor antagonists enhance HCC treatment efficacy by inhibiting ADAMs and suppressing MICA shedding	Cancer Immunol Immunother. 2021 Jan;70(1):203-213.	Original article
36	Inoki Kazuya, Konda Kenichi, Katagiri Atsushi et al.	消化器内科	Successful Management of Pharyngeal Perforation Caused by Overtube Insertion During Endoscopic Submucosal Dissection	Cureus. 2020 May 13;12(5):e8090. (オンライン)	Case report
37	Inoki Kazuya, Katagiri Atsushi, Yoshida Hitoshi et al.	消化器内科	Management of sigmoid volvulus: somewhere in between endoscopic detorsion and immediate surgery	Gastrointest Endosc. 2020 Nov;92(5):1144-1145.	Letter
38	Katagiri Atsushi, Inoki Kazuya, Konda Kenichi et al.	消化器内科	Case of Colorectal Cancer After Cold Snare Polypectomy Successfully Salvaged on Endoscopic Submucosal Dissection	Cureus. 2020 Oct 26;12(10):e11182. (オンライン)	Case report
39	Yanagisawa Fumito, Inoki Kazuya, Katagiri Atsushi et al.	消化器内科	Cold snare polypectomy in combination with a traction device for resection of a colonic adenoma partially extending into a diverticulum	VideoGIE. 2020 Jul 24;5(11):580-582. (オンライン)	Original article
40	Arai Ken, Koba Shinji, Yokota Yuva et al.	循環器内科	Relationships of Fatty Acids, Delta-5 Desaturase Activity, and Lipid Profiles in Men with Acute Coronary Syndrome	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis(1340-3478)27巻5号 Page397-405(2020.05)	Original article
41	Arai Shuhei, Kawamura Mitsuharu, Gokan Toshihiko et al.	循環器内科	Relationship between device-detected subclinical atrial fibrillation and heart failure in patients with cardiac resynchronization therapy defibrillator	Clin Cardiol. 2020 Dec;43(12):1517-1523.	Original article
42	Gokan Toshihiko, Kawamura Mitsuharu, Arai Shuhei et al.	循環器内科	Effect of Implantable Cardioverter-defibrillator Therapy for Ventricular Fibrillation Patients with Out-of-hospital Cardiac Arrest	Showa Univ J Med Sci. 2020 Apr;32(1):43-55. (オンライン)	Original article
43	Kawamura Mitsuharu, Munetsugu Yumi	循環器内科	Editorial to "A novel scoring system for stroke risk stratification in Japanese patients with low CHADS2 scores: Study using a transesophageal-echocardiogram endpoint."	J Arrhythm. 2020 May 18;36(4):632-633. (オンライン)	Others
44	Kayano Hiroyuki, Koba Shinji, Hirano Tsutomu et al.	循環器内科	Dapagliflozin Influences Ventricular Hemodynamics and Exercise-Induced Pulmonary Hypertension in Type 2 Diabetes Patients - A Randomized Controlled Trial	Circ J. 2020 Sep 25;84(10):1807-1817.	Original article
45	Koba Shinji, Inoue Ikuo, Cyrille Marcoli et al.	循環器内科	Evolocumab vs. Ezetimibe in Statin-Intolerant Hyperlipidemic Japanese Patients: Phase 3 GAUSS-4 Trial	J Atheroscler Thromb. 2020 May 1;27(5):471-484.	Original article
46	Koba Shinji	循環器内科	Noncholesterol Sterols and Sitosterolemia in Clinical Practice	J Atheroscler Thromb. 2020 May 1;27(5):406-408.	Others
47	Matsumoto Hidenari, Mikuri Mikiko, Masaki Ryota et al.	循環器内科	Feasibility of intracoronary nicorandil for inducing hyperemia on fractional flow reserve measurement: Comparison with intracoronary papaverine	Int J Cardiol. 2020 Sep 1;314:1-6.	Original article
48	Nomura Kosuke, Akutsu Yasushi, Tsujita Hiroaki et al.	循環器内科	Impact of Native Coronary Artery Calcification on Lesion Outcome Following Drug-Coated Balloon Angioplasty for Treatment of In-Stent Restenosis	Showa Univ J Med Sci. 2020 Apr;32(1):57-72. (オンライン)	Original article
49	Oishi Yosuke, Tsujita Hiroaki, Ogura Kunihiro et al.	循環器内科	Early Vascular Response to Ultrathin Biodegradable Polymer Sirolimus-Eluting Stents for the Treatment of ST-Elevation Myocardial Infarction After Plaque Rupture	Int Heart J. 2021;62(1):42-49.	Original article
50	Tanisawa Hiroki, Akutsu Yasushi, Ito Hiroyuki et al.	循環器内科	Epicardial Adipose Tissue in the Right Atrium Is Associated with Progression of Atrial Fibrillation and Recurrence after Pulmonary Vein Catheter Ablation in Patients with Atrial Fibrillation	Showa Univ J Med Sci. 2020 Apr;32(1):11-24. (オンライン)	Original article

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
51	Akizawa Tadao, Otsuka Tetsuro, Reusch Michael et al.	腎臓内科	Intermittent Oral Dosing of Roxadustat in Peritoneal Dialysis Chronic Kidney Disease Patients with Anemia: A Randomized, Phase 3, Multicenter, Open-Label Study	Ther Apher Dial. 2020 Apr;24(2):115-125.	Original article
52	Akizawa Tadao, Ueno Mai, Shiga Takanori et al.	腎臓内科	Oral roxadustat three times weekly in ESA-naïve and ESA-converted patients with anemia of chronic kidney disease on hemodialysis: Results from two phase 3 studies	Ther Apher Dial. 2020 Dec;24(6):628-641.	Original article
53	Akizawa Tadao, Iwasaki Manabu, Yamaguchi Yusuke et al.	腎臓内科	Phase 3, Randomized, Double-Blind, Active-Comparator (Darbepoetin Alfa) Study of Oral Roxadustat in CKD Patients with Anemia on Hemodialysis in Japan	J Am Soc Nephrol. 2020 Jul;31(7):1628-1639.	Original article
54	Akizawa Tadao, Nangaku Masaomi, Yonekawa Taeko	腎臓内科	Efficacy and Safety of Daprodustat Compared with Darbepoetin Alfa in Japanese Hemodialysis Patients with Anemia: A Randomized, Double-Blind, Phase 3 Trial	Clin J Am Soc Nephrol. 2020 Aug 7;15(8):1155-1165.	Original article
55	Akizawa Tadao, Iwasaki Manabu, Yamaguchi Yusuke et al.	腎臓内科	Authors' Reply	J Am Soc Nephrol. 2020 Nov;31(11):2738-2740.	Letter
56	Hasegawa Takeshi, Nishiwaki Hiroki,	腎臓内科	Aldosterone antagonists for people with chronic kidney disease requiring dialysis	Cochrane Database Syst Rev. 2021 Feb 15;2(2):CD013109. (オンライン)	Original article
57	Honda Hirokazu, Kimachi Miho, Kurita Noriaki et al.	腎臓内科	Low rather than high mean corpuscular volume is associated with mortality in Japanese patients under hemodialysis	Sci Rep. 2020 Sep 24;10(1):15663. (オンライン)	Original article
58	Honda Hirokazu, Tanaka Kenji, Michihata Tetsuo et al.	腎臓内科	Erythropoiesis stimulating agents are associated with serum fibroblast growth factor 23 metabolism in patients on hemodialysis	Clin Kidney J. 2020 Jun 23;14(3):943-949. (オンライン)	Original article
59	Iseri Ken, Dai Lu, Chen Zhimin et	腎臓内科	Bone mineral density and mortality in end-stage renal disease patients	Clin Kidney J. 2020 Jun 26;13(3):307-321. (オンライン)	Review
60	Iseri Ken, Carrero Juan Jesús, Evans	腎臓内科	Incidence of Fractures Before and After Dialysis Initiation	J Bone Miner Res. 2020 Dec;35(12):2372-2380.	Original article
61	Iseri Ken, Carrero Juan Jesús, Evans	腎臓内科	Fractures after kidney transplantation: Incidence, predictors, and association with mortality	Bone. 2020 Nov;140:115554. (オンライン)	Original article
62	Iseri Ken, Qureshi Abdul Rashid, Ripsweiden Jonaz	腎臓内科	Sparing effect of peritoneal dialysis vs hemodialysis on BMD changes and its impact on mortality	J Bone Miner Metab. 2021 Mar;39(2):260-269.	Original article
63	Iseri Ken, Carrero Juan Jesús, Evans	腎臓内科	Secular trends in hip fracture incidence and subsequent mortality in dialysis patients and the general population in Sweden	Bone. 2021 Jun;147:115909. (オンライン)	Original article
64	Iseri Ken, Carrero Juan Jesús, Evans	腎臓内科	Major fractures after initiation of dialysis: Incidence, predictors and association with mortality	Bone. 2020 Apr;133:115242. (オンライン)	Original article
65	Kanazawa Nobuhiro, Wada Yukihiro, Akiyama Minako	腎臓内科	Crescentic IgA nephropathy after administration of human monoclonal interleukin-12/23p40 antibody in a patient with Crohn's disease: a case report	CEN Case Rep. 2020 Aug;9(3):204-209.	Original article
66	Saito Tomohiro, Mizobuchi Masahide, Miwa Yusuke et al.	腎臓内科	Anti-MDA-5 antibody-positive clinically amyopathic dermatomyositis with rapidly progressive interstitial lung disease treated with therapeutic plasma exchange: A case series	J Clin Apher. 2021 Feb;36(1):196-205.	Case report
67	Saito Tomohiro, Mima Yuuki, Sugiyama Motonori et al.	腎臓内科	Multidisciplinary management of calciphylaxis: a series of 5 patients at a single facility	CEN Case Rep. 2020 May;9(2):122-128.	Original article
68	Sugiyama Motonori, Wada Yukihiro, Kanazawa Nobuhiro et al.	腎臓内科	A cross-sectional analysis of clinicopathologic similarities and differences between Henoch-Schönlein purpura nephritis and IgA nephropathy	PLoS One. 2020 Apr 23;15(4):e0232194. (オンライン)	Original article
69	Wada Yukihiro, Iyoda Masayuki, Matsumoto Kei et al.	腎臓内科	Reno-protective effect of IL-34 inhibition on cisplatin-induced nephrotoxicity in mice	PLoS One. 2021 Jan 11;16(1):e0245340. (オンライン)	Original article
70	Hattori Norimichi, Sato Misuzu, Uesugi Yuka et	血液内科	Characteristics and predictors of post-transplant-associated hemophagocytic lymphohistiocytosis in adults	Int J Hematol. 2021 May;113(5):693-702.	Original article
71	Kawaguchi Yukiko, Saito Bungo, Nakata Ayaka et al.	血液内科	Elevated C-reactive protein level is associated with poor prognosis in follicular lymphoma patients undergoing rituximab-containing chemotherapy	Int J Hematol. 2020 Sep;112(3):341-348.	Original article
72	Futamura Akinori, Hieda Sotaro, Mori	脳神経内科	Cingulate Island Sign in Single Photon Emission Computed Tomography: Clinical Biomarker Correlations in Lewy Body Disease and Alzheimer's Disease	J Alzheimers Dis. 2021;79(3):1003-1008.	Letter
73	Futamura Akinori, Hieda Sotaro, Mori	脳神経内科	Toxic Amyloid-β 42 Conformer May Accelerate the Onset of Alzheimer's Disease in the Preclinical Stage	J Alzheimers Dis. 2021;80(2):639-646.	Original article
74	Hieda Sotaro, Yasumoto Taro, Kokudai Yumika et al.	脳神経内科	Optic Nerve Tortuosity in Idiopathic Intracranial Hypertension	Intern Med. 2020 Oct 15;59(20):2635. (オンライン)	Original article
75	Iizuka Natsuko, Masaoka Yuri, Kubota Satomi et al.	脳神経内科	Entorhinal cortex and parahippocampus volume reductions impact olfactory decline in aged subjects	Brain Behav. 2021 May;11(5):e02115. (オンライン)	Original article
76	Kubota Satomi, Masaoka Yuri, Sugiyama Haruko et al.	脳神経内科	Hippocampus and Parahippocampus Volume Reduction Associated With Impaired Olfactory Abilities in Subjects Without Evidence of Cognitive Decline	Front Hum Neurosci. 2020 Sep 30;14:556519. (オンライン)	Original article

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
77	Ono Kenjiro, Tsuji Mayumi, Yamasaki Tritia	脳神経内科	Anti-aggregation Effects of Phenolic Compounds on α -synuclein	Molecules. 2020 May 24;25(10):2444. (オンライン)	Review
78	Sugimoto Azusa, Shozawa Hidenobu, Mizuma Keita et al.	脳神経内科	Pallidal dementia with underlying sleep apnea syndrome: a case report and literature review	Neurol Sci. 2020 Jul;41(7):1961-1963.	Review
79	Yoshida Mizuho, Hayashi Toshihiro, Fujii	脳神経内科	Selective impairment of On-reading (Chinese-style pronunciation) in alexia with agraphia for kanji due to subcortical hemorrhage in the left posterior middle temporal	Neurocase. 2020 Aug;26(4):220-226.	Original article
80	Kubota Yutaro, Fujita Ken-Ichi, Takahashi Takehiro et al.	腫瘍内科	Higher Systemic Exposure to Unbound Active Metabolites of Regorafenib Is Associated With Short Progression-Free Survival in Colorectal Cancer Patients	Clin Pharmacol Ther. 2020 Sep;108(3):586-595.	Original article
81	Ohkuma Ryotaro, Yada Erica, Ishikawa Shumpei et al.	腫瘍内科	High expression levels of polymeric immunoglobulin receptor are correlated with chemoresistance and poor prognosis in pancreatic cancer	Oncol Rep. 2020 Jul;44(1):252-262.	Original article
82	Ohkuma Ryotaro, Yada Erica, Ishikawa Shumpei et al.	腫瘍内科	High levels of human epididymis protein 4 mRNA and protein expression are associated with chemoresistance and a poor prognosis in pancreatic cancer	Int J Oncol. 2021 Jan;58(1):57-69.	Original article
83	Miyamoto Kazuyuki, Nakamura Motoyasu, Suzuki Keisuke et al.	救急診療科	Diagnosis of neurofibromatosis type 1 after rupture of aneurysm and consequent fatal hemothorax	Am J Emerg Med. 2020 Jul;38(7):1543.e3-1543.e5. (オンライン)	Case report
84	Miyamoto Kazuyuki, Suzuki Keisuke, Nakamura Motoyasu et al.	救急診療科	Hypovolemic shock induced by a large chest wall hematoma caused by a single rib fracture in an elderly patient	Trauma Case Rep. 2021 Mar 17;32:100459. (オンライン)	Case report
85	Nagatomo Yasuhiro, Shirakura Tetsuro, Fukuchi Kunihiko et al.	感染症内科	Monitoring Quinolone Resistance Due to Mutations in GyrA and ParC in Haemophilus Influenzae(2012-17)	Showa Univ J Med Sci. 2020 Apr;32(1):81-90. (オンライン)	Original article
86	Aoki Atsushi, Maruta Kazuto, Hosaka Norifumi et al.	心臓血管外科	Predictive Factor of the Possibility for Aortic Side Branches Coil Embolization during Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair	Ann Vasc Dis. 2020 Sep 25;13(3):240-247.	Original article
87	Omoto Tadashi, Aoki Atsushi, Maruta Kazuto et al.	心臓血管外科	Influence of transcatheter aortic valve replacement on patients with severe aortic stenosis undergoing non-cardiac surgery	J Cardiothorac Surg. 2020 Jul 29;15(1):198. (オンライン)	Original article
88	Minakata Takao, Kamio Yoshito, Kadokura Mitsutaka et al.	呼吸器外科	A Case of Lymphangiomatosis With Infected Lymphangiomas Effectively Treated by Thoracoscopic Debridement and Drainage	Chest. 2020 Nov;158(5):e221-e224. (オンライン)	Case report
89	Aoki Takeshi, Koizumi Tomotake, Mansour Doaa A et al.	消化器・一般外科	Virtual reality with three-dimensional image guidance of individual patients' vessel anatomy in laparoscopic distal pancreatectomy	Langenbecks Arch Surg. 2020 May;405(3):381-389.	Original article
90	Aoki Takeshi, Mansour Doaa A, Koizumi Tomotake et al.	消化器・一般外科	Preventing clinically relevant pancreatic fistula with combination of linear stapling plus continuous suture of the stump in laparoscopic distal pancreatectomy	BMC Surg. 2020 Oct 6;20(1):223. (オンライン)	Original article
91	Aoki Takeshi, Koizumi Tomotake, Sugimoto Maki et al.	消化器・一般外科	Holography-guided percutaneous puncture technique for selective near-infrared fluorescence-guided laparoscopic liver resection using mixed-reality wearable spatial computer	Surg Oncol. 2020 Dec;35:476-477.	Original article
92	Aoki Takeshi, Matsuda Kazuhiro, Mansour Doaa A et al.	消化器・一般外科	Narrow-band Imaging Examination of Microvascular Architecture of Subcapsular Hepatic Tumors	J Surg Res. 2021 May;261:51-57.	Original article
93	Enami Yuta, Aoki Takeshi, Tomioka Kodai et al.	消化器・一般外科	Obesity is not a risk factor for either mortality or complications after laparoscopic cholecystectomy for cholecystitis	Sci Rep. 2021 Jan 27;11(1):2384. (オンライン)	Original article
94	Otsuka Koji, Murakami Masahiko, Goto Satoru et al.	消化器・一般外科	Minimally invasive esophagectomy and radical lymph node dissection without recurrent laryngeal nerve paralysis	Surg Endosc. 2020 Jun;34(6):2749-2757.	Original article
95	Sasamoto Suguru, Aoki Takeshi, Tashiro Yoshihiko et al.	消化器・一般外科	Experience of the pancreas duodenectomy for so-called carcinosarcoma of the common bile duct: a case report and review of literature	Int Cancer Conf J. 2021 Jan 3;10(2):134-138. (オンライン)	Original article
96	Tashiro Yoshihiko, Nishino Hiroto, Higuchi Takashi	消化器・一般外科	Ischemia reperfusion-induced metastasis is resistant to PPAR γ agonist pioglitazone in a murine model of colon cancer	Sci Rep. 2020 Oct 29;10(1):18565. (オンライン)	Original article
97	Tashiro Yoshihiko, Han Qinghong, Tan	消化器・一般外科	Oral Recombinant Methioninase Inhibits Diabetes Onset in Mice on a High-fat Diet	In Vivo. 2020 May-Jun;34(3):973-978.	Original article
98	Tashiro Yoshihiko, Han Qinghong, Tan	消化器・一般外科	Oral Recombinant Methioninase Prevents Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Mice on a High Fat Diet	In Vivo. 2020 May-Jun;34(3):979-984.	Original article
99	Tashiro Yoshihiko, Aoki Takeshi, Hirai	消化器・一般外科	Pathological Validity of Using Near-infrared Fluorescence Imaging for Securing Surgical Margins During Liver Resection	Anticancer Res. 2020 Jul;40(7):3873-3882.	Original article
100	Tashiro Yoshihiko, Hollandsworth Hannah M.	消化器・一般外科	Indocyanine Green Labels an Orthotopic Nude-Mouse Model of Very-Early Colon-Cancer Liver Metastases	In Vivo. 2020 Sep-Oct;34(5):2277-2280.	Original article

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
101	Tomioaka Kodai, Aoki Takeshi, Matsuda Kazuhiro et al.	消化器・一般外科	Usefulness of a Transumbilical Incision for Organ Removal in Laparoscopic Hepatectomy	Anticancer Res. 2020 Nov;40(11):6545-6550.	Original article
102	Tomioaka Kodai, Aoki Takeshi, Koizumi Tomotake et al.	消化器・一般外科	Laparoscopic Treatment of a Hepatoduodenal Ligament Schwannoma With Infrared Indocyanine Green Fluorescence	In Vivo. 2020 Jul-Aug;34(4):2037-2041.	Original article
103	Wada Yusuke, Aoki Takeshi, Fujimori Akira et al.	消化器・一般外科	Intraoperative Shear Wave Elastography as a Quantitative Predictor of Pancreatic Fibrosis and Exocrine Function	Anticancer Res. 2021 Feb;41(2):1013-1019.	Original article
104	Watanabe Ken, Aoki Takeshi, Yamazaki Kimiyasu et al.	消化器・一般外科	A case of ruptured right gastroepiploic aneurysm treated by transcatheter arterial embolization avoiding emergency surgery	Clin J Gastroenterol. 2021 Apr;14(2):633-637.	Original article
105	Yamada Kosuke, Aoki Takeshi, Enami Yuta et al.	消化器・一般外科	An Improved Encapsulation Method for Cryopreserving Hepatocytes for Functional Transplantation Using a Thermo-reversible Gelation Polymer	In Vivo. 2020 Sep-Oct;34(5):2309-2316.	Original article
106	Yamashita Takeshi, Tan Jeremy, Lim Eugene et al.	消化器・一般外科	A case of gastric cancer after sleeve gastrectomy	Asian J Endosc Surg. 2020 Oct;13(4):586-591.	Case report
107	Ide Yoshimi, Liu Lei, Miura Sakiko et al.	乳腺外科	Frequency of high-risk hormone receptor-positive breast cancer patients was much higher in Japanese breast cancer patients with germline BRCA1/2 mutations than in sporadic breast cancer patients	Breast J. 2021 Feb;27(2):188-190.	Original article
108	Inuzuka Mayuko, Watanabe Chie, Yokoyama Shiro et al.	乳腺外科	A Retrospective Analysis of the Relationship Between the Result of BRCA1/2 Genetic Testing and Surgical Method Selection in Japan	Clin Breast Cancer. 2021 Feb;21(1):e48-e52. (オンライン)	Original article
109	Matsunaga Yuki, Yamaoka Toshimitsu, Ohba Motoi et al.	乳腺外科	Novel Anti-FOLR1 Antibody-Drug Conjugate MORAb-202 in Breast Cancer and Non-Small Cell Lung Cancer Cells	Antibodies (Basel). 2021 Feb 1;10(1):6. (オンライン)	Original article
110	Matsutani Akiko, Udagawa Chihiro, Matsunaga Yuki et al.	乳腺外科	Liquid biopsy for the detection of clinical biomarkers in early breast cancer: new insights and challenges	Pharmacogenomics. 2020 Apr;21(5):359-367.	Review
111	Matsutani Akiko, Ide Yoshimi, Miura Sakiko et al.	乳腺外科	Innovative use of magnetic resonance imaging-guided focused ultrasound surgery for non-invasive breast cancer: a report of two cases	Surg Case Rep. 2020 Nov 23;6(1):294. (オンライン)	Original article
112	Sakai Haruna, Umeda Megumi, Okuyama Hiromi et al.	乳腺外科	Differences in perception of breast cancer treatment between patients, physicians, and nurses and unmet information needs in Japan	Support Care Cancer. 2020 May;28(5):2331-2338.	Original article
113	Aiura Ryo, Matsumoto Masaki, Mizutani Tohru et al.	脳神経外科	Surgical clip occlusion of the V3 segment to prevent recurrent cerebral infarction associated with extracranial vertebral artery dissection: A case report	Surg Neurol Int. 2020 Oct 15;11:337. (オンライン)	Case report
114	Iizuka Kazuki, Sato Yosuke, AU - Imaizumi Y et al.	脳神経外科	Potential Efficacy of Multimodal Mixed Reality in Epilepsy Surgery	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2021 Feb 16;20(3):276-281.	Original article
115	Kushamae Mika, Miyata Haruka, Shirai Manabu et al.	脳神経外科	Involvement of neutrophils in machineries underlying the rupture of intracranial aneurysms in rats	Sci Rep. 2020 Nov 17;10(1):20004. (オンライン)	Original article
116	Sato Yosuke, Sugiyama Tatsuya, Mizutani Tohru et al.	脳神経外科	Whole-Field Indocyanine Green Intensity Analysis to Intraoperatively Predict Cerebral Hyperperfusion Syndrome Following Superficial Temporal Artery-Middle Cerebral Artery Bypass: A Retrospective Case-Control Study in 7-Year Experience With 112 Cases	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2020 Jun 1;18(6):652-659.	Original article
117	Dodo Yusuke, Chatani Masahiro, Azetsu	整形外科	Myelination during fracture healing in vivo in myelin protein zero (p0) transgenic medaka line	Bone. 2020 Apr;133:115225. (オンライン)	Original article
118	Ito Hiroshi, Toyone Tomoaki, Nagai Takashi et al.	整形外科	Relationship Between Muscle Mass of the Lower Limbs and Falls Caused by Spinal Misalignment in Women Aged 70 Years: A Retrospective Study	Clin Spine Surg. 2021 Feb 1;34(1):E19-E25. (オンライン)	Original article
119	Kawasaki Keikichi, Nemoto Tetsuya, Kubo Kazutoshi et al.	整形外科	Vascularized Bone Grafting for Scaphoid Nonunion with Humpback Deformity: The Surgical Technique	J Wrist Surg. 2020 Dec;9(6):528-534.	Original article
120	Kudo Yoshifumi, Toyone Tomoaki, Endo Kenji et al.	整形外科	Impact of Spinopelvic sagittal alignment on the surgical outcomes of dropped head syndrome: a multi-center study	BMC Musculoskelet Disord. 2020 Jun 15;21(1):382. (オンライン)	Original article
121	Kudo Yoshifumi, Okano Ichiro, AU - Toyone T et al.	整形外科	Lateral lumbar interbody fusion in revision surgery for stenosis after posterior decompression	Neurosurg Focus. 2020 Sep;49(3):E11. (オンライン)	Original article
122	Nagai Takashi, Okano Ichiro, Ishikawa Koji et al.	整形外科	The serum 25(OH)D level and hand grip strength for fall risk assessment among osteoporotic elderly Japanese women	Arch Osteoporos. 2021 Feb 24;16(1):42. (オンライン)	Original article
123	Nemoto Tetsuya, Ito Satoshi, Kobayashi Daisuke et al.	整形外科	Long-term Use of Golimumab in Daily Practice for Patients with Rheumatoid Arthritis	Intern Med. 2021 May 1;60(9):1359-1367.	Original article
124	Niitsuma Gaku, Nakashima Hidechika, Nagai Takushi et al.	整形外科	Extensive high-pressure injection injury of the hand due to epoxy resin paint: a case report	Case Reports Plast Surg Hand Surg. 2021 Mar 15;8(1):56-62.	Case report
125	Nishi Masanori, Yoshikawa Yasushi, Kaji Yasutaka et al.	整形外科	Multi-Site Insufficiency Pelvic Fracture Following Total Hip Arthroplasty	Am J Case Rep. 2020 Dec 29;21:e927776. (オンライン)	Case report

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
126	Okamura Hiroki, Ishikawa Koji, Kudo Yoshifumi et al.	整形外科	Risk factors predicting osteosarcopenia in postmenopausal women with osteoporosis: A retrospective study	PLoS One. 2020 Aug 7;15(8):e0237454. (オンライン)	Original article
127	Tani Soji, Ishikawa Koji, Kudo Yoshifumi	整形外科	The effect of denosumab on pedicle screw fixation: a prospective 2-year longitudinal study using finite element analysis	J Orthop Surg Res. 2021 Mar 26;16(1):219. (オンライン)	Original article
128	Yagi Toshio, Oshita Yusuke, Okano Ichiro et	整形外科	Controlling nutritional status score predicts postoperative complications after hip fracture surgery	BMC Geriatr. 2020 Jul 13;20(1):243. (オンライン)	Original article
129	Yamakawa Tomoyuki, Okamatsu Nobuaki, Ishikawa Koji et	整形外科	Novel gene Merlot inhibits differentiation and promotes apoptosis of osteoclasts	Bone. 2020 Sep;138:115494. (オンライン)	Original article
130	Minohara Sawa, Fujishiro Masaya, Lee Xiao-Pen et al.	形成外科	High-throughput identification and determination of aminoglycoside antibiotics in human plasma using UPLC-Q-ToF-MS	Eur J Mass Spectrom (Chichester). 2021 Feb;27(1):63-70.	Original article
131	Morioka Daichi, Tamura Satoru	形成外科	Excision of large lipomas using a Z-shaped incision	Dermatol Ther. 2020 Jul;33(4):e13786. (オンライン)	Others
132	Morioka Daichi, Tamura Satoru	形成外科	Nonsurgical enucleation of plantar epidermal cysts using salicylic acid plaster	Dermatol Ther. 2020 Nov;33(6):e13879. (オンライン)	Letter
133	Morioka Daichi, Nomura Misako	形成外科	Axillary Osmidrosis: Past, Present, and Future	Ann Plast Surg. 2020 Jun;84(6):722-728.	Review
134	Nomura Misako, Morioka Daichi, Kojima Yasutaka et al.	形成外科	Open versus Closed Surgery for Axillary Osmidrosis: A Meta-Analysis of Articles Published in Four Languages	Ann Dermatol. 2020 Dec;32(6):487-495.	Original article
135	Tsuda Tomoko, Lan Lan, Morioka Daichi et al.	形成外科	Change in Incisional Design in Primary Unilateral Cleft Lip Repair Under General Anesthesia	J Craniofac Surg. 2020 Jun;31(4):e401-e405. (オンライン)	Original article
136	Hirose Yusuke, Yamaguchi-Naka Mayuko, Onuki Mamiko et al.	産婦人科	High Levels of Within-Host Variations of Human Papillomavirus 16 E1/E2 Genes in Invasive Cervical Cancer	Front Microbiol. 2020 Nov 24;11:596334. (オンライン)	Original article
137	Kawashima Akihiro, Oba Tomohiro, Yasuhara Rika et al.	産婦人科	Cytokine profiles in maternal serum are candidates for predicting an optimal timing for the delivery in early-onset fetal growth restriction	Prenat Diagn. 2020 May;40(6):728-737.	Original article
138	Nishii Shogo, Seo Kohei, Izdebski Aleksander, Tatsuya et al.	産婦人科	Development of a High-intensity Focused Ultrasound Exposure Device for Reducing Skin Burn Risk	Showa Univ J Med Sci. 2020 Apr;32(1):1-9. (オンライン)	Original article
139	Nishii Shogo, Yamaguchi Koushi, Amita Mitsuyoshi et al.	産婦人科	Successful Pregnancy in a Case of Behçet's Disease after Treatment with Prednisolone	Case Rep Obstet Gynecol. 2020 Oct 15;2020:8862651. (オンライン)	Case report
140	Onuki Mamiko, Matsumoto Koji, Iwata Takashi et al.	産婦人科	Human papillomavirus genotype contribution to cervical cancer and precancer: Implications for screening and vaccination in Japan	Cancer Sci. 2020 Jul;111(7):2546-2557.	Original article
141	Takita Hiroko, Matsuoka Ryu, Tokunaka Mayumi et al.	産婦人科	Usefulness of color Doppler mode for fetal cardiac ultrasound screening in the second trimester: a study at a single perinatal center	J Matern Fetal Neonatal Med. 2020 Nov;33(21):3695-3698.	Original article
142	Yamaguchi-Naka Mayuko, Onuki Mamiko, Tenjimbayashi Yuri et al.	産婦人科	Molecular epidemiology of human papillomavirus 18 infections in Japanese Women	Infect Genet Evol. 2020 Sep;83:104345. (オンライン)	Original article
143	Sunaga Yuma, Kurosawa Michiko, Ochiai Hirotsuka et al.	皮膚科	The nationwide epidemiological survey of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis in Japan, 2016-2018	J Dermatol Sci. 2020 Dec;100(3):175-182.	Original article
144	Hirano Kojiro, Mori Tomoaki, Suzuki Takahiro et al.	耳鼻咽喉科	A Rare Case of Elongated Styloid Process Fracture	Am J Case Rep. 2020 Aug 4;21:e925405. (オンライン)	Case report
145	Suzaki Isao, Hirano Kojiro, Arai Sawa et al.	耳鼻咽喉科	Primary Ciliary Dyskinesia with Refractory Chronic Rhinosinusitis	Am J Case Rep. 2020 Aug 30;21:e923270. (オンライン)	Case report
146	Suzaki Isao, Tanaka Akihiko, Hirano Kojiro et al.	耳鼻咽喉科	Successful management of eosinophilic chronic rhinosinusitis complicated by severe asthma using dupilumab, following negative initial results with benralizumab	Allergol Int. 2021 Jan;70(1):150-152.	Letter
147	Tanaka Yoshihito, Furuta Atsuko, Asano Kazuhito et al.	耳鼻咽喉科	Modulation of Th1/Th2 Cytokine Balance by Quercetin In Vitro	Medicines (Basel). 2020 Jul 30;7(8):46. (オンライン)	Original article
148	Endo Mio, Hirano Ryohei, Shibasaki Hiromi et al.	小児科	Midazolam Intoxication in a Premature Neonate	Clin Ther. 2020 May;42(5):946-951.	Case report
149	Hinokuma Nodoka, Nakashima Mitsuko, Asai	小児科	Clinical and genetic characteristics of patients with Doose syndrome	Epilepsia Open. 2020 Jul 23;5(3):442-450. (オンライン)	Original article
150	Hinokuma Nodoka, Sakurai Shunsuke, Shiratori	小児科	A pediatric patient with hyponatremic hypertensive syndrome without persistent hypertension in acute phase: A case report and review of literature	SAGE Open Med Case Rep. 2020 Nov 25;8:2050313X20969559. (オンライン)	Case report
151	Itabashi Kazuo, Miyazawa Tokuo, Sekizawa Akihiko et al.	小児科	A Nationwide Antenatal Human T-Cell Leukemia Virus Type-1 Antibody Screening in Japan	Front Microbiol. 2020 Apr 9;11:595. (オンライン)	Review

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの対象となる論文

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
152	Itabashi Kazuo, Miyazawa Tokuo, Nerome Yasuhito et al.	小児科	Issues of infant feeding for postnatal prevention of human T-cell leukemia/lymphoma virus type-1 mother-to-child transmission	Pediatr Int. 2021 Mar;63(3):284-289.	Original article
153	Itabashi Kazuo, Miyazawa Tokuo, Kusuda Satoshi et al.	小児科	Changes in mortality rates among extremely preterm infants born before 25 weeks' gestation: Comparison between the 2005 and 2010 nationwide surveys in Japan	Early Hum Dev. 2021 Apr;155:105321. (オンライン)	Original article
154	Maeda Mayu, Imai Takanori, Ishikawa Ryoko	小児科	Effect of oral immunotherapy in children with milk allergy: The ORIMA study	Allergol Int. 2021 Apr;70(2):223-228.	Original article
155	Miyazawa Tokuo, Itabashi Kazuo, Tamura Masanori et al.	小児科	Unsupervised breastfeeding was related to sudden unexpected postnatal collapse during early skin-to-skin contact in cerebral palsy cases	Acta Paediatr. 2020 Jun;109(6):1154-1161.	Original article
156	Nakano Yuya	小児科	Adult-Onset Diseases in Low Birth Weight Infants: Association with Adipose Tissue Maldevelopment	J Atheroscler Thromb. 2020 May 1;27(5):397-405. (オンライン)	Review
157	Yamashita Kosei, Samejima Mai, Oikawa Kosuke et al.	小児科	White sponge nevus in a three-year-old boy: A case report	Pediatr Int. 2020 Jul;62(7):882-883.	Case report
158	Fujii Takanari, Tomita Hideshi, Kobayashi Toshiaki et al.	小児循環器内科	Clinical trial of the CP stent for pulmonary artery stenosis: the first investigator-initiated clinical trial for pediatric interventional cardiology in Japan	Heart Vessels. 2021 Feb;36(2):291-296.	Original article
159	Nagaoka Kota, Ibuki Keijiro, Miyahara Yoshinori et al.	小児循環器内科	Perforated posterior mitral leaflet aneurysm in an 8-month-old infant	Cardiol Young. 2021 Jan;31(1):153-154.	Original article
160	Tomita Hideshi, Fujii Takanari, Kise Hiroaki et al.	小児循環器内科	Percutaneous pulmonary artery banding	J Cardiol. 2021 Mar;77(3):307-312.	Original article
161	Hida Masami, Hayashi Wakaho, Okajima Yuka et al.	精神神経科	Neuropsychological characteristics of adults with attention-deficit/hyperactivity disorder without intellectual disability	Neuropsychopharmacol Rep. 2020 Dec;40(4):407-411.	Original article
162	Iwanami Akira, Saito Kazuhiko, Fujiwara Masakazu et al.	精神神経科	Efficacy and Safety of Guanfacine Extended-Release in the Treatment of Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder in Adults: Results of a Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled Study	J Clin Psychiatry. 2020 Apr 14;81(3):19m12979. (オンライン)	Original article
163	Kashima Yuki, Masui Kenichi	麻酔科	Individual pharmacometric analysis for sugammadex reversal and re-administration of neuromuscular blockade	J Anesth. 2020 Oct;34(5):786-789.	Original article
164	Masui Kenichi	麻酔科	Remimazolam besilate, a benzodiazepine, has been approved for general anesthesia!!	J Anesth. 2020 Aug;34(4):479-482.	Others
165	Masui Kenichi	麻酔科	Interpretation of laboratory tests for prevention of the SARS-CoV-2 transmission	J Anesth. 2021 Jun;35(3):374-377.	Original article
166	Okazaki Haruko, Miura Norikazu, Kashima Yuki et al.	麻酔科	Severe hyponatremia with seizures and confirmed mild brain edema by hysteroscopic myomectomy: a case report	JA Clin Rep. 2020 Oct 1;6(1):74. (オンライン)	Original article
167	Maeda Atsuo, Yamamura Ryo, Tarumi Yoko et al.	救命救急科	Mistaking an Auto-injector for a Ballpoint Pen	Intern Med. 2020 Sep 1;59(17):2201. (オンライン)	Original article
168	Funakoshi Haruki, Momo Kenji, Kashima Ayaka et al.	病院薬剤学	Liver Injury by the Traditional Chinese Medicine Hanshirento, Zenshikunshito, and Ninjin'yoeito in a Patient with Lung Cancer: Probable Causality Assessed by the Updated Roussel Uclaf Causality Assessment Method	Integr Cancer Ther. 2021 Jan-Dec;20:15347354211004734. (オンライン)	Original article
169	Hoshi Akane, Momo Kenji, Kurihara Tatsuya et al.	病院薬剤学	Survey of the Time-Onset Profiles of Nedaplatin-Induced Adverse Events in Head and Neck Cancer Therapy	Gan To Kagaku Ryoho. 2021 Feb;48(2):207-210.	Original article
170	Oto Yuji, Momo Kenji, Nagata Takuya et al.	病院薬剤学	Severe Drowsiness with Fever Induced by Transdermal Fentanyl Administration	J Palliat Med. 2020 Aug;23(8):1006-1008.	Letter
171	Fujii Tomoki, Usui Hiromi, Sato Hisaya et al.	放射線技術部	New simple imaging method for short-axis view in cardiac MRI inferred from chest X-ray	JART: 日本診療放射線技師会誌. 2021 Jan;68(1):20-29.	Original article
172	Kittaka Daisuke, Sato Hisaya, Nakai Yuichi et al.	放射線技術部	Relationship Between Coronary Fractional Flow Reserve and Computational Fluid Dynamics Analysis in Moderate Stenosis of the Coronary Artery	Circ Rep. 2020 Sep 25;2(10):545-551.	Review

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 ①審査機関（委員会）の審査範囲及び申請書類提出窓口について ②審査申請のための事前準備について ③審査申請に必要とされる書類について ④申請書類の作成について（参照すべき指針を含む） ⑤申請から審査・承認までの流れについて ⑥申請から研究実施までのフローチャート ⑦研究計画の経過報告及び終了報告について ⑧重篤な有害事象及び不具合への対応について ⑨研究計画に伴って発生した苦情の窓口について ⑩昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会に関する問い合わせ先について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年6回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
- 2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 ①利益相反の定義 ②利益相反マネジメントの対象者 ③利益相反マネジメントの対象範囲 ④利益相反委員会について ⑤利益相反審議等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年25回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回 (別途DVD配布により開催)
・ 研修の主な内容 臨床研究を実施するために必要な倫理指針および知識等について教育を行っている。 ①「臨床試験実施の倫理的基本事項」について ②「臨床研究実施計画書の書き方概説」について ③「特定臨床研究実施」について ④「個人情報保護法」について ⑤「利益相反」について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

臨床研修修了後、各診療科において本学の特色である「チーム医療」を活かした専門的な研修を行っている。

特に内科部門においては、内科研修医制度を独自に制度化している。臨床研修修了後の3年目に内科系診療科を目指す者は、1年間内科学講座に所属して日本内科学会の認定内科医資格を取得出来るように資格取得条件としている18症例全ての内容を各領域の診療科長から評価してもらっている。症例不足分野に関しては必要な診療科でのローテートを義務付けており、臨床研修期間を含めた3年間で内科領域に精通し、なおかつ専門分野の知識を有した人材の育成に努めている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	111人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
田中 明彦	呼吸器・アレルギー内科	准教授	24 年	
矢嶋 宜幸	リウマチ・膠原病内科	准教授	22 年	
山岸 昌一	糖尿病・代謝・内分泌内科	教授	32 年	
本田 浩一	腎臓内科	教授	29 年	
吉田 仁	消化器内科	教授	33 年	
中牧 剛	血液内科	教授	39 年	
新家 俊郎	循環器内科	教授	28 年	
富田 英	小児循環器内科	特任教授	42 年	
小野 賢二郎	脳神経内科	教授	23 年	
角田 卓也	腫瘍内科	教授	32 年	
時松 一成	感染症内科	教授	31 年	
岡本 健一郎	緩和医療科	特任教授	41 年	
武井 秀史	呼吸器外科	教授	28 年	
宮原 義典	小児心臓血管外科	教授	22 年	
青木 淳	心臓血管外科	教授	36 年	
青木 武士	消化器・一般外科	教授	27 年	
村上 雅彦	食道外科	特任教授	39 年	
中村 清吾	乳腺外科	教授	38 年	
渡井 有	小児外科	教授	30 年	
水谷 徹	脳神経外科	教授	36 年	
稲垣 克記	整形外科	教授	34 年	
笠井 史人	リハビリテーション科	教授 (員外)	30 年	
黒木 和明	形成外科	准教授	31 年	
関沢 明彦	産婦人科	教授	31 年	
水野 克己	小児科	教授	33 年	
小林 一女	耳鼻咽喉科	教授	38 年	
深貝 隆志	泌尿器科	教授	35 年	
扇谷 芳光	放射線科	教授	26 年	

伊藤 芳紀	放射線治療科	教授	26	年	
大江 克憲	麻酔科	教授	31	年	
小谷 透	集中治療科	教授	34	年	
土肥 謙二	救命救急科	教授	34	年	
垂水 庸子	救急診療科	教授	20	年	
矢持 淑子	臨床病理診断科	教授	30	年	
恩田 秀寿	眼科	教授	21	年	
相良 博典（代）	皮膚科	教授	33	年	
岩波 明	精神神経科	教授	35	年	
相良 博典（代）	東洋医学科	教授	33	年	
岡 秀一郎	歯科麻酔科	准教授	38	年	
山口 麻子	歯科・口腔外科	講師	26	年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

＜看護部＞

1. 新人看護師研修会
2. プリセプター研修
3. チームリーダー研修
4. 新人教育責任者研修
5. 2年目研修
6. 看護師中途採用者・学内異動者研修
7. ナースヘルパー研修
8. クリニカルラダー別研修（eラーニング除く）
9. 新任係長研修

＜臨床病理検査室＞

1. 新入職員研修会

＜臨床工学室＞

1. 医療機器定期講習会
2. 新人看護師研修会
3. ローカル講習会
4. 医療機器新規導入時研修会

＜薬剤部＞

1. 新薬説明研修（eラーニング）

＜放射線技術部＞

1. ローカル講習会
2. MRI実地訓練

＜事務部＞※下記研修は新型コロナウイルス感染症の影響により中止

1. 救命救急センター業務研修
2. がん診療に関わる医師に対する緩和ケア研修会
3. がん医療研究会
4. がん医療セミナー
5. N S T勉強会

・研修の期間・実施回数

＜看護部＞

1. 1日・年23回、半日・年2回
2. 半日・年1回、1時間・年3回
3. 1時間・年3回
4. コロナ発生状況により開催困難となり中止
5. 半日・年1回
6. 1日・年1回
7. 1日・年1回
8. 1時間・年39回
9. 半日・年1回

<臨床病理検査室>

1. 半日・年1回

<臨床工学室>

1. eラーニング・年2回
2. 1日・年1回
3. 10日・年10回
4. 1日・年8回

<薬剤部>

1. eラーニング 2か月に1回 年6回

<放射線技術部>

1. 1日・年2回
2. 28回

<事務部>

1. 1日～20日・年11回
2. 1日～2日・年2回
3. 1日・年1回
4. 1日・年3回
5. 1日・年3回

・研修の参加人数

<看護部>

1. 97名
2. 96名
3. 91名
4. 0名
5. 66名
6. 5名
7. 165名
8. 1,389名（延べ人数）
9. 12名

<臨床病理検査室>

1. 18名

<臨床工学室>

1. 2286名
2. 96名
3. 120名
4. 679名

<薬剤部>

1. 78名

<放射線技術部>

1. 70名
2. 136名

<事務部>

1. 中止
2. 中止
3. 中止
4. 中止
5. 中止

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

（注）１ 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）２ 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 相良 博典	
管理担当者氏名	管理課長 佐々木 真、クオリティマネジメント課長 秋山 好司 医事入院課長 小川 孝行、医事外来課長 赤須 文	

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	項 規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	管理課
		各科診療日誌	管理課
		処方せん	電子カルテ
		手術記録	電子カルテ
		看護記録	電子カルテ
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	電子カルテ
		紹介状	電子カルテ
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ
病院の管理及び運営に関する諸記録	掲げる事項 規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事入院課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事入院課
		高度の医療の研修の実績	管理課
		閲覧実績	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事外来課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事外来課、医事入院課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部
	に掲げる事項 規則第一条の十一第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の医療安全対策基本マニュアル内に保管
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部門
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部門
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部門

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	各診療科、部門、病棟、外来、検査室の院内感染防止対策基本マニュアル内に保管	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理部門	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理部門	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理部門	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部門及び臨床工学室	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部門
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理部門
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部門
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療安全管理部門
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部門
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部門及び薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部門
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部門
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部門
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部門
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部門
		職員研修の実施状況	医療安全管理部門
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部門
管理者が有する権限に関する状況	管理課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	管理課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	管理課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 相良 博典	
閲覧担当者氏名	管理課長 佐々木 真、 クオリティマネジメント課長 秋山 好司 医事入院課長 小川 孝行 医事外来課長 赤須 文	
閲覧の求めに応じる場所	管理課、クオリティマネジメント課、医事入院課、医事外来課	
閲覧の手続の概要		
病院長宛ての依頼文書に基づき、担当部署から依頼者へ手続き等の連絡を行い、閲覧を許可する		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1) 趣旨 2) 基本的な考え方 3) 安全管理の体制確保 4) 安全管理担当者の配置 5) 医療事故等の院内報告制度 6) アクシデント(医療事故)の対応 7) 職員研修の実施 8) 患者からの相談への対応 9) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 10) 安全管理のためのルールブックの整備 11) 医療安全情報の非開示 12) 医療安全体制の監査 13) 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の導入	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： 1) 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集、分析、企画・立案、実行・周知及び評価・改善 2) 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のための指針の整備 3) 医療の質の維持・向上並びに、医療事故等の防止、安全管理のための職員研修 4) 重大な医療事故等が発生した場合には速やかに調査を行い、原因の究明（分析）及びその対応（改善策の実施）を行う。その対応についての職員周知 5) 前項(4)において実施された対応について必要に応じて調査と見直し 6) 医療事故等の院内報告制度の整備 7) 医療事故調査制度に係る対象事例の判断 8) その他、医療事故に関するすべて（訴訟も含む）の事項を検討し、適切かつ速やかな対策の検討	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年7回
・ 研修の内容（すべて）： 1) 活用しよう！ポケットマニュアル 2) 医療安全管理体制について 3) 医療放射線安全について 4) RRS(Rapid Response System)について 5) 医療安全情報の活用について 受講対象者：2,286人 受講者数：2,286人 受講率100%	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ 有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 各部署内でインシデント、アクシデント事例は、各部署の所属長、セーフティマネジャー及び関係者による分析、改善策が検討されインシデント及び状況報告書で医療安全管理部門に報告される。医療安全管理部門としては、報告されたインシデントレポートは医療安全管理者が全件閲覧し、患者に与えた影響度、発生頻度、組織としての対応や情報共有の必要性を考慮し、カテゴリーに分類して抽出する。事例によっては、医療安全主導で症例検討会(年50件程度)を開催し、また年2回M&Mカンファレンスも開催し、インシデント防止を目的とした運用案を立案する。その結果は医療安全管理・対策委員会に報告される。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： 1. 基本的な考え方 2. 病院感染防止の体制確保 3. (委員会・部門・ICT・ASTの設置、神瀬管理者・感染リコネクター・感染リコネクターの配置) 4. 病院感染等の院内報告制度 5. 病院感染等の発生時に対応 6. 職員教育(職員研修の実施) 7. その他感染防止対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： 1. 医療関連感染に関する対策の決定と原因分析、調査 2. 職業感染予防に関連した安全機材や個人防護具の選定、ワチンプログラム[®]の推進、接触者検診の検討 3. 病院内で発生した感染症と薬剤耐性菌、職員の針刺し事例について報告 4. ICT環境ラウンドとAST(抗菌薬適正使用支援チーム)ラウンド実施と改善状況の報告 5. 講習会の開催案内 6. マニュアル、指針、委員会規程の見直しと改訂について検討 7. 厚生労働所や東京都からの法令改定、通知、感染症情報の共有 8. アウトブレイク発生時の要因調査と分析、感染予防策の立案、情報共有 9. 相互ラウンドや地域連携カンファレンスの報告 10. 手洗いキャンペーンの実施	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年6回
・ 研修の内容(すべて)： 1. 新型コロナウイルス感染症と標準予防策 2. 抗菌薬の適正使用①(内服) 3. 針刺し・体液曝露 4. 耐性菌対策 5. 抗菌薬の適正使用②(ASTガイダンス改訂ポイント) 6. 結核診断、治療、届出、空気予防策 7. 受講対象者：2,286人 受講者数：2,286人 受講率100%	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) 医師や看護師、病院内で勤務する者は、患者や職員の感染症発生時または感染症が疑われる場合、感染管理部門に連絡する。感染管理部門は情報収集と感染予防策の確認や指導、検討を行い、拡大予防と原因の調査を行う。これらの情報をまとめ、毎月院内感染防止対策委員会で事例と対策の実施状況を報告し、情報共有を行う。アウトブレイクと判断した場合は東京都福祉保健局と管轄保健所、私立医科大学病院感染対策協議会事務局に報告と相談を行う。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： サーベイランスを実施し感染症や薬剤耐性菌の検出率、手指衛生の遵守率、手指消毒薬の使用状況のベースラインを把握する。感染症発生の早期発見と感染予防策の改善に役立てている。また、定期的に環境ラウンドや抗菌薬適正使用ラウンドを行い、改善支援やプロセス評価、アウトカム評価とフィードバックを継続している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容： e-ラーニング：医薬品に関する医療安全について（全員対象） 受講対象者：2,286人 受講者数：2,286人 受講率100%	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 週に一度、病院管理者と医療安全の各担当者による巡視を実施。巡視の時に手順書の内容に沿ったチェックリストを使用し、実施状況を確認。問題があればその場でフィードバックを行っている。問題点は1週間後に再度改善状況を確認している。また病棟担当薬剤師による上記チェックリストに沿った確認を月に1度実施し、その結果を医薬品安全管理責任者が確認している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： <未承認薬> ・ 5%スコポラミン軟膏（院内製剤）の使用 <適応外使用> ・ 重症COVID-19陽性患者の治療に使用するリドカイン注、トシリズマブ注。 ・ ステロイド抵抗性自己免疫性肝炎に対するタクロリムス療法 ・ 術後大量出血・大量輸血患者に対する遺伝子組み換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤の投与。 ・ 小児における全身麻酔に使用するレミマゾラム注。 など ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 周術期における抗血栓薬の適正使用を検討するワーキンググループを立ち上げ、観血的操作時における医薬品の取り扱い基準を再検討。 ・ ハイアラート薬の見直し。 ・ 処方調剤時、薬品取り揃え時における、薬品バーコード認証の導入。 ・ 注射薬における1施用毎の取り揃え、調製、実施の徹底 など	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年41回
・ 研修の主な内容： ・ 医療機器定期講習会 - eラーニング①（生体モニタアラーム・除細動器・誤接続防止コネクタ）1回 - eラーニング②（除細動器②）1回 ・ 新人看護師研修会 1回 ・ ローカル講習会 10回 ・ 医療機器新規導入時研修会 18回 ・ その他 10回	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 （ ☒・無 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ・ メーカー推奨の定期点検 ・ 人工心肺装置及び補助循環装置 ・ 人工呼吸器 ・ 血液浄化装置 ・ 除細動器 ・ 閉鎖式保育器 など	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ ☒・無 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ 新型コロナウイルス肺炎に対する胸部単純X線画像診断支援機能の評価（放射線治療科） 発熱者対応外来へ来院した新型コロナウイルス肺炎の疑いがある患者を対象とし、 発熱者対応外来現場の医師が診察の過程で撮像した胸部X線画像に対して、 胸部X線画像診断支援機能（AI）を適用する。2020.5.16高難度新規医療技術・未承認新規 医薬品等評価委員会にて承認 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ PMDA及びメーカーからの安全性情報の収集 ・ 医療機器安全NEWSの発行 ・ 医療機器安全管理責任者による定期巡視	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 院内および院外における医療安全管理情報の把握と各医療安全関係管理者への指示・監督を行っている。原則毎週、医療安全管理部門員で集まり、合併症報告やインシデント報告、医薬品の副作用、医療機器の不具合等の情報共有およびそれらに関する対策および再発防止策について議論し、医療安全管理部門の進むべき方向性を医療安全管理責任者が指示している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ 有（11名） ・ 無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 【各種情報の整理】 薬剤部医薬品情報室にて集約、整理される。 【医薬品安全管理責任者への報告】 薬剤部医薬品情報室担当者より随時報告される。医薬品安全管理責任者は情報の緊急性・重要性を判断し院内周知を医薬品情報室に依頼。医薬品の使用、採用申請状況は、医薬品安全管理責任者が薬剤部医薬品情報室にて週1回行われるミーティングに出席し共有。また毎日のインシデント事例報告より情報収集。以上の中から対策が必要と判断した場合は対策の立案と実施。 【院内周知】 DI ニュースを月に2回発行。また、必要に応じてトピックス等を作成し発行。 また、医療安全ニュース（最低月1回）にて発信する場合もある。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 情報の整理・報告は同上の通り。使用に関する相談等あった場合はまず代替案・代替治療の検索と提案。無い場合には委員会への申請の必要性を判断し、必要なら申請を依頼。その間に妥当性・有効性、安全性・経済性の観点から情報を収集整理する。以上を随時、医薬品安全管理責任者へ報告。それを情報のひとつとして委員会にて判断を行う。 ・ 担当者の指名の有無（☒ 有 ・ 無） ・ 担当者の所属・職種： （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (☒ 有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 模擬ケアプロセスで選ばれた症例について、規定に定められた事項の遵守状況を確認する。 患者への説明内容、説明・同意書の記載内容、同席者の規程について指導する。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ 有・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： 無作為抽出による診療録監査を実施して、診療録の記載内容を確認する。管理者巡視の場で報告・指導する。また、報告書を病院運営委員会に提出し周知する。 模擬ケアプロセスで選ばれた症例の診療録監査を実施して、結果を模擬ケアプロセスの場で報告する。また、報告書を診療録管理室運営委員会にて周知する。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ 有・無
所属職員：専従（4）名、専任（4）名、兼任（16）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（0）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（2）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： (1) 医療安全のガバナンス体制の推進及び整備に関すること。 (2) 医療安全のガバナンス体制の管理及び維持・向上のため必要な情報収集及び分析、評価に関すること。 (3) 医療事故に関する報告窓口業務に関すること。 (4) 医療事故に関する初期情報収集と対応。 (5) 医療事故等の原因究明及び診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分にされている事の確認を行うとともに必要な指導を行うこと。 (6) 医療の質の維持・向上並びに医療事故の防止、安全管理のための職員への教育・研修の企画・立案及び実行、周知徹底業務。 (7) 医療安全に関する連絡調整に関すること。 (8) 医療の質の維持・向上並びに医療事故に関する書類等の確認及び必要な指導に関すること。 (9) 医療事故発生時の患者及び家族への説明等の対応状況を確認し必要な指導を行うこと。	

- (10) 所管する会議等の資料及び議事録の作成と保存、並びに会議の業務に関すること。
- (11) 訴訟に関する業務(事務)
- (12) 当該事故関係医療従事者を支援すること(精神的サポート体制)
- (13) 院内の全死亡事例の監査
- (14) 内部通報窓口の運用に関すること。
- (15) 高難度新規医療技術の評価及び管理(運用については別に定める)。
- (16) 未承認新規医薬品等の評価及び管理(運用については別に定める)。
- (17) 診療録管理室と連携し、インフォームド・コンセント及び診療記録の質に関する監査に資すること。
- (18) 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスを行うこと：定例会
- (19) インシデントレベルに関係なく重要な検討が必要な事例については症例検討会を行うこと。
- (20) 各部門における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果を記録すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（19 件）、及び許可件数（19 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - (1) 高難度医療技術の新規導入に関する適否等の評価及び管理
 - (2) 高難度医療技術の新規・変更申請窓口業務
 - (3) 高難度医療技術を適用した全症例の管理
 - (4) 高難度新規医療技術評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（25 件）、及び許可件数（25 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒・無）
- ・活動の主な内容：
 - (1) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用に関する適否等の評価及び管理
 - (2) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用の新規・変更申請の窓口業務
 - (3) 未承認新規医薬品等、保険適用外医療及び適応外使用した全症例の管理
 - (4) 未承認新規医薬品等評価委員会等の資料及び議事録の作成と管理
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 497 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 25 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
原因の分析及び再発防止策を立案し、医療安全管理部門に実施の指示をする。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒（病院名：①杏林大学医学部附属病院
② 国立がんセンター中央病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒（病院名：①杏林大学医学部附属病院
② 国立がんセンター中央病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況

非麻酔科医による鎮静のルールの整備状況について

⇒非麻酔科医は必ず麻酔科医のレクチャーを受けて実施できる院内認定制度を検討している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

- 1) 電話相談及び窓口相談（総合相談窓口）
- 2) 投書箱

相談内容をアセスメントし、一時対応は受付部署で行うが、必要に応じて該当する各部署と連携し解決する。その後、関係する部署の所属長や医療安全管理部門長、病院長と院内責任者へ報告する。内容によっては各種委員会にて検討し対応策の検討を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

上記、「規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」の③「医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」に記載の通り

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【管理者】2020年11月11日

2020年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医療安全管理責任者】2020年12月10日

2020年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

【医薬品安全管理責任者】①2020年12月10日 ②2020年11月29日

①2020年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

②令和2年度医薬品安全管理責任者等講習会 一般社団法人日本病院薬剤師会

【医療機器安全管理責任者】2020年12月16日

2020年度特定機能病院管理者研修 公益財団法人日本医療機能評価機構

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

2015 年 3 月に病院機能評価（一般病院 2）の認定を受け、2021 年 12 月に病院機能評価（一般病院 3）を受審予定である。

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

2015 年の認定結果については、昭和大学病院ホームページにて公表している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

2015 年の受審時に B 評価であった 5 項目については是正の上、2016 年 12 月に期中確認を受けている。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 (1) 医師であること (2) 心身ともに健全にして人格高潔であること (3) 組織管理能力等の当該病院を管理運営する上で必要な素質及び能力を有すること (4) 医療の高度の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること (5) 診療及び臨床教育・研究についての識見を有すること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無) ・ 公表の方法 昭和大学病院ホームページ

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ ☒ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 昭和大学病院ホームページ				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

[illegible]

昭和大学病院・昭和大学病院附属東病院 管理会議構成員

2021.4.1

No.		職種	役職	委員長
1	三邊 武幸	医師	昭和大学病院・附属東病院 担当理事	
2	相良 博典	医師	昭和大学病院長	◎
3	稲垣 克記	医師	昭和大学病院附属東病院長	
4	小林 洋一	医師	昭和大学病院副院長	
5	吉田 仁	医師	昭和大学病院副院長	
6	大江 克憲	医師	昭和大学病院副院長	
7	青木 武士	医師	昭和大学病院副院長	
8	荒川 千春	看護師	看護部長	
9	佐々木 忠徳	薬剤師	薬剤部長	
10	田口 彰彦	事務員	事務部長	
11	佐々木 真	事務員	管理課長	
12	小川 孝行	事務員	医事入院課長	
13	赤須 文	事務員	医事外来課長	
14	布村 順一	事務員	東病院管理課長	
15	秋山 好司	事務員	クオリティマネジメント課長	
16	田口 美保	看護師	看護部次長(陪席)	
17	村岡 真輔	事務員	管理課管理係長(陪席)	
18	小林 達彦	事務員	学校法人昭和大学総務部総務課長(陪席)	

病院運営委員会 委員名簿

N o	委員長	氏名	職位	職種
1	◎	相良 博典	昭和大学病院長	医師
2		稲垣 克記	昭和大学病院附属東病院長	医師
3		小林 洋一	昭和大学病院副院長	医師
4		大江 克憲	昭和大学病院副院長	医師
5		吉田 仁	昭和大学病院副院長	医師
6		青木 武士	昭和大学病院副院長	医師
7		田中 明彦	准教授	医師
8		矢嶋 宣幸	准教授	医師
9		山岸 昌一	教授	医師
10		本田 浩一	教授	医師
11		中牧 剛	教授	医師
12		新家 俊郎	教授	医師
13		小野 賢二郎	教授	医師
14		角田 卓也	教授	医師
15		時松 一成	教授（員外）	医師
16		岡本 健一郎	特任教授	医師
17		岩波 明	教授	医師
18		高塩 理	准教授	医師
19		武井 秀史	教授	医師
20		青木 淳	教授	医師
21		村上 雅彦	特任教授	医師
22		中村 清吾	教授	医師
23		渡井 有	教授	医師
24		水谷 徹	教授	医師
25		豊根 知明	教授（員外）	医師
26		筈井 史人	教授（員外）	医師
27		黒木 和明	准教授	医師
28		関沢 明彦	教授	医師
29		松本 光司	教授（員外）	医師
30		恩田 秀寿	教授	医師
31		水野 克己	教授	医師
32		小林 一女	教授	医師
33		深貝 隆志	教授	医師
34		扇谷 芳光	教授	医師
35		伊藤 芳紀	教授	医師
36		小谷 透	教授	医師
37		土肥 謙二	教授	医師
38		垂水 庸子	准教授	医師
39		矢持 淑子	教授	医師
40		山口 麻子	講師	歯科医師
41		富田 英	特任教授	医師
42		宮原 義典	教授（員外）	医師
43		嶋根 俊和	教授（員外）	医師
44		山村 冬彦	准教授	医師
45		今井 孝成	教授（員外）	医師
46		五藤 哲	講師	医師
47		加藤 光広	教授（員外）	医師
48		吉武 理	准教授	医師
49		安達 太郎	講師	医師
50		谷岡 大輔	総括診療科長補佐	医師
51		福井 智康	副総括診療科長補佐	医師
52		荒川 千春	看護部長	看護師
53		田口 美保	看護部次長	看護師
54		佐々木 忠徳	薬剤部長	薬剤師
55		嶋村 弘史	課長	薬剤師
56		渡邊 裕之	課長	診療放射線技師
57		島居 美幸	責任者	管理栄養士
58		大石 竜	技士長	臨床工学技士
59		家泉 桂一	係長	臨床検査技師
60		小林 真一	センター長（特任教授）	医師
61		泉 美貴	教授	医師
62		土佐 泰祥	教授（員外）	医師
63		田口 彰彦	事務部長	事務員
64		佐々木 真	課長	事務員
65		秋山 好司	課長	事務員
66		小川 孝行	課長	事務員
67		赤須 文	課長	事務員
68		布村 順一	課長	事務員
69		筈井 龍	主査	事務員
70		内田 裕司	課長	事務員
71		村岡 真輔	係長	事務員
72		佐藤 駿太	主査	事務員
73		守屋 希和	主査	事務員
74		大山 圭太	係員	事務員

※構成員の2／3以上の出席で開催。

※議決は出席者の1／2で議決。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法 昭和大学病院ホームページ
- ・ 規程の主な内容
 - (1) 経営に関すること
 - ア 事業計画、予算の立案及び執行
 - イ 収支の掌握及び改善
 - (2) 診療に関すること
 - ア 診療体制及び診療科の管理
 - イ 患者サービス
 - (3) 医療安全・感染管理に関すること
 - (4) 病院の業務管理に関すること
 - (5) 病院職員の教育・研究に関すること
 - (6) 人事管理に関すること
 - (7) コンプライアンスに関すること
 - (8) その他病院の管理・運営に必要なこと
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
4名の副院長にそれぞれ業務分担を行い、院長（管理者）をサポートする体制を整えている。
（医療安全、感染管理、個人情報、労働安全管理、診療運営、患者支援、中央診療部門、
地域連携、広報、救急、災害対策、外科系、内科系、研修医、臨床倫理・研究倫理、
保険診療、職員教育研修 等）
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構）2020 年 11 月 11 日

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況				☒ ・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 医療安全各責任者の業務の実施状況について確認する。 理事長又は病院長に是正措置を講ずるよう意見する。 監査結果をホームページで公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ） ・ 公表の方法：昭和大学病院ホームページ					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
貝阿彌 誠	弁護士	○	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者、その他の学識経験を有する者	有・ ☒	1
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院病院長		医療に関する学識経験者	有・ ☒	1
越石 孝一	患者代表		医療従事者以外の者で医療を受ける者	有・ ☒	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
附属病院機能評価調査委員会にて定期的に附属病院の評価・指導を実施
- ・専門部署の設置の有無（ ☒ ・無 ）
- ・内部規程の整備の有無（ ☒ ・無 ）
- ・内部規程の公表の有無（ 有 ・ ☒ ）
- ・公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 病院担当理事協議会とは別に病院長は執行役員として理事会に陪席し、病院業務に係る体制強化を実施している。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ） ・ 公表の方法			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：病院担当理事協議会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
別紙参照			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

病院担当理事協議会 委員名簿(2021年度)

No.		委員長	利害関係
1	小出 良平 学校法人昭和大学総括病院担当理事	◎	有
2	小口 勝司 学校法人昭和大学理事長		有
3	上條 由美 学校法人昭和大学副理事長		有
4	久光 正 昭和大学学長		有
5	三邊 武幸 昭和大学病院・東病院・江東豊洲病院・烏山病院・ 歯科病院担当理事		有
6	眞田 裕 藤が丘病院・リハビリ病院・北部病院担当理事		有
7	榎 宏太郎 人事・労務担当理事 統括看護部担当理事		有
8	小川 良雄 統括看護部担当理事		有
9	相良 博典 昭和大学病院長(陪席)		有
10	稲垣 克記 昭和大学病院附属東病院長(陪席)		有
11	高橋 寛 昭和大学藤が丘病院長(陪席)		有
12	市川 博雄 昭和大学藤が丘リハビリテーション病院長(陪席)		有
13	門倉 光隆 昭和大学横浜市北部病院長(陪席)		有
14	笠間 毅 昭和大学江東豊洲病院長(陪席)		有
15	岩波 明 昭和大学附属烏山病院長(陪席)		有
16	馬場 一美 昭和大学歯科病院長(陪席)		有
17	小玉 敦司 学校法人昭和大学事務局長(陪席)		有
18	田口 彰彦 学校法人昭和大学統括病院事務部長(陪席) (昭和大学病院事務部長)		有
19	佐々木 真 昭和大学病院管理課長(陪席)		有
20	菅 秀彰 昭和大学病院管理課係長(書記)		有

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 1 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 院内ポケットマニュアル（常時携帯）への記載。回覧文書、委員会での周知

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ホームページに記載 (http://www.showa-u.ac.jp/SUH/index.html)	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 内科医師、外科医師、薬剤師、看護師が診療にあたれるよう「センター化」を行い、複数の診療科をはじめ、多くの医療従事者が1人の患者に関わることで「チーム医療」を実現している。	

(様式第 8-3)

昭 大 病 発 第 1 7 号
令和 3 年 10 月 18 日

厚生労働大臣

殿

学校法人昭和大学
理事長 小口 勝司

昭和大学病院の第三者による評価を受審する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 受審予定である第三者評価

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価のうち、一般病院 3 による評価2 Joint Commission Internationalが実施する、J C I 認証による評価3 ISO 規格に基づく、ISO 9001 認証による評価 |
|---|

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

2 第三者評価を受けるための予定措置

令和3年12月に病院機能評価（一般病院3）を受審予定。
